

第2回西日本圏ゼネラルサービスフォーラム

「Keep coming back」

～ A.A.からのメッセージ～



【地方圏ゼネラルサービスフォーラムの目的】

- AAにおける共通した課題に対して意見や分かち合い、地域を超えた地方圏の一体性と活性化を図る。
- ゼネラルサービスについて適切な情報提供を行い、分かち合う。
- ゼネラルサービスに関わる責任と喜びを共に感じ、次の仲間たちへ手渡していく。

2025年12月 20日(土)、21日(日)

岡山県生涯学習センターとオンラインのハイブリッド開催

主催 AA 日本常任理事会

ホスト地域 中四国

協力地域 関西/九州沖縄

実行委員会メンバー

理事会

佐々木(西日本圏理事)

郷(企画、テクノロジー担当理事)

理事委員会

多々良、サカモト(テクノロジー委員会)

佐知子(書記/東関越地域千葉地区 柏 Gr)

尾関[おぜっち](テクノロジー/元評議員)

元永[アンディ](地域取り纏め/元評議員)

中四国地域

岡山地区:カワダ(岡山天神 Gr)

ナンバ(岡山丸の内 Gr)

ヒラヤマ(岡山丸の内 Gr)

山口地区:アンディ(宇部 Gr)

オー(ゆかり Gr)

Osamu(ゆかり Gr)

ゆうこ(しんさく Gr)

窪田(しんさく Gr)

山陰地区:くにこ(浜田 Monday Miracle Gr)

Rui(浜田 Monday Miracle Gr)

四国 :なっち(香川 栗林 Gr)

関西地域

兵庫地区:おぜっち(甲子園 Gr)

滋賀地区:Nishi(おおつ今日一日 Gr)

泉州地区:じゅん(泉佐野サタデーGr)

杏里(いずみ Gr)

KEN(藤井寺 Gr)

大阪南地区:みき(堀江 Gr)

サカモト(生野 Gr)

ショウイチ(枚岡 Gr)

あろう(生野 Gr)

九州・沖縄

福岡地区:月(小倉南ラベンダーGr)

ヒロキ(黒崎 Gr)

宮崎地区:カイ(フェニックス Gr)

大分地区:としき(iRis Gr)

Wisteria(わさだ Gr)

東関越地域

埼玉東地区:多々良(みさと Gr) 千葉地区:佐知子(柏 Gr) 新潟地区:Kyow(さぎなみ Gr)

※GSF 開催当日協力メンバー

中四国地域

岡山地区 :カツ(岡山丸の内 Gr)

ゆきこ(岡山丸の内 Gr)

リコ(岡山丸の内 Gr)

タカタ(岡山丸の内 Gr)

サラ(岡山ビックブックGr)

山口地区 :サイキ(光 Gr)

四国/香川:ゆき(栗林 Gr)

まい(栗林 Gr)

高知:ふみえ(高知 Gr)

シマムラ(よきこい二笑Gr)

関西地域

泉州地区:あべる(オニオン Gr)

かずゆき(The☆あゆみ Gr)

役割

実行委員長:佐々木	開催地域リーダー:元永[アンディ]
テクノロジーチーム:郷 多々良 尾関 月 Wisteria なっち ゆうこ としき 窪田	
遠隔サポート:サカモト 佐知子 みき ショウイチ カイ Osamu Kyow Nishi	
カメラマン:杏里 あべる かずゆき	*ローテーション調整/じゅん
財務チーム:佐々木 郷	広報チーム:郷 佐々木 KEN
会場献金管理:元永 シマムラ KEN	フライヤー作成・発注:Kouji
報告書作成:佐々木 佐知子 としき	書籍展示:サラ ゆき ふみえ
受付:ナンバ カツ ゆきこ リコ ヒラヤマ	タイムキーパー:サイキ オー タカタ

プログラム

日時	プログラム	テーマ	担当	司会	
12/20 (土)	9:10	会場受付開始			
	9:30	オープニング	開催挨拶/開催趣旨説明/注意事項	郷/多々良	元永/ 佐々木
	9:55		序文朗読・12 の伝統朗読		
	10:00	パネル① 地域の現状と課題	カワダ(岡山地区 岡山天神 G)	中四国	主:じゅん 副:丹生
	10:15		としき(大分地区 iRisG)	九州・沖縄	
	10:30		服部(関西地域前期評議員)	関西	
	10:45		ディスカッション Q&A	-	
	11:00	休憩			
	11:10	パネル② サービスにおける述べ伝え	まい(香川 栗林 G)	中四国	主:くにこ 副:笹井
	11:25		貞方(九州沖縄地域前期評議員)	九州・沖縄	
	11:40		ホテル(泉州地区 北野田 G)/Zoom	関西	
	11:55		ディスカッション Q&A	-	
	12:10	昼食休憩			
	13:00	パネル③ 遠隔地の仲間はどうやって メッセージを運ぶか	Osamu(山口地区 ゆかり G)/Zoom	中四国	主:杏里 副:石川
	13:15		カンナ(沖縄地区 首里 G)/Zoom	九州・沖縄	
	13:30		とら(滋賀地区 オネスティ唐崎 G)/Zoom	関西	
	13:45		ディスカッション Q&A	-	
	14:00	休憩			
	14:10	ゼネラルサービスオフィス JSO スタッフ紹介	出版・国際担当(オンライン)/Zoom	田崎	笹井
	14:25		JSO 所長(現地)	曾根	
	14:40		ディスカッション Q&A	-	
	14:55	A 類常任理事からの メッセージ	社会資源としての AA/Zoom	大嶋	郷
	15:10		医療現場から AA へ提案/Zoom	菅沼	
	15:25	休憩			
	15:35	B 類常任理事からの メッセージ	全国選出:財務担当	湯澤	今井
	15:50		全国選出:出版担当	丹生	
	16:05		東日本選出:広報担当	石川	
	16:20		西日本圏選出:BOX・矯正担当	佐々木	
	16:35		GS 選出:評議会・JSO・NL 担当	笹井	
	16:50		GS 選出:議長・企画・テクノロジー担当	郷	
17:05	WSM 評議員からの メッセージ	AOSM/WSM	今井/大迫	郷	
17:35	ディスカッション Q&A		-		
17:50	ラウンドテーブル説明	多々良			
18:00	夕食休憩				

12/20 (土)	19:00	各種ラウンドテーブル	地方にメンバーが定着しないのは何故か?/現地会場	アンディ
			サービスでとまどった事/Zoom	省吾
			サービスって何?/Zoom	としき
			女性の回復とサービス/Zoom	ナンバ
	20:40	終了		

日時	プログラム	テーマ	担当	司会	
12/21 (日)	9:10	会場受付開始			
	9:30	オープニング	開催挨拶/開催趣旨説明/注意事項	郷/多々良	元永/ なっち
	9:55		序文朗読・12の伝統朗読		
	10:00	パネル④ 輪番制の難しさ、厳しさ	トモ(鳥取 白うさぎ G)	中四国	主:月 副:大迫
	10:15		SHOW(福岡地区 ウォームス G)/Zoom	九州・沖縄	
	10:30		シェビー(京都地区 京都スマイル G)	関西	
	10:45		ディスカッション Q&A	-	
	11:00	休憩			
	11:10	パネル⑤ 金銭と霊性	アンディ(山口地区 宇部 G)	中四国	主:ヒロキ 副:湯澤
	11:25		月(福岡地区 小倉ラベンダーG)	九州・沖縄	
	11:40		小谷(京都地区 洛陽 G)	関西	
	11:55		ディスカッション Q&A	-	
	12:10	昼食休憩			
	13:00	ラウンドテーブル報告	地方にメンバーが定着しないのは何故か?	アンディ	主:オー 副:佐々木
	13:10		サービスでとまどった事	省吾	
	13:20		サービスって何?	Wisteria	
	13:30		女性の回復とサービス	ナンバ	
	13:40		ディスカッション Q&A	-	
	14:00	休憩			
	14:10	バスケット Q&A	郷		
	14:40	今、何を感じていますか	丹生		
	15:10	クロージング	西日本圏理事挨拶	郷/佐々木	
			GS 理事挨拶		
			Dr.ボブのスピーチ		
	15:30	閉会			

実行委員会 10 回、テック練習会 8回

【参加状況】参加者:217名 Zoom 参加:142名 現地参加:75名

12月20日(土) 1日目

開催挨拶/開催趣旨説明 郷 注意事項 多々良

司会 元永、佐々木

開会の挨拶

B 類常任理事 郷 (議長、企画、議事(評議会)補佐、JSO 補佐)

皆様、西日本圏ゼネラルサービスフォーラムにご参加いただきありがとうございます。

私は B 類常任理事企画担当の郷と申します。常任理事会議長も担当しております。

地方圏ゼネラルサービスフォーラムは今回で 4 回目、西日本圏では 2 回目となります。

目的としては、

- AA に於ける共通した課題に対して意見や経験を分かち合い、地域を超えた地方圏の一体性と活性化を図る。
 - ゼネラルサービスについて適切な情報提供を行い、分かち合う。
 - ゼネラルサービスに関わる責任と喜びを共に感じ、次の仲間たちへ手渡していく。
- という 3 点が挙げられます。

このような催しは従来からアメリカ・カナダに於いて PRAASA と呼ばれるものが開催されてお
り、2019 年に当時の常任理事をはじめ何名かが日本から参加しました。

そして、日本でもぜひ開催したいという事になり、2019 年 11 月に名古屋でプレ企画が開催さ
れました。これは午後のみ半日の企画でした。

その後 2020 年の第 25 回評議会にてゼネラルサービスフォーラムの開催が勧告となりました。
2021 年に第 1 回西日本圏ゼネラルサービスフォーラムがフルオンラインにて開催され、2022 年
には第 1 回東日本圏ゼネラルサービスフォーラムが札幌の会場にてハイブリッド形式で開催され
ました。

翌 2023 年には第 1 回関東甲信越圏ゼネラルサービスフォーラムが東京の八王子の会場にてハ
イブリッド形式で開催されました。

いずれも多くの方々にご参加いただき、とても活発で熱気のあるイベントであったと記憶してお
ります。

何よりも、私自身が常任理事をやろうと決意したもののゼネラルサービスフォーラムがきっかけで
した。

日本には地方圏が 3 つございますので、一通り開催し、今回は西日本圏ゼネラルサービスフォ
ーラムとしては第 2 回になります。

2024 年 12 月から事前打合せを開始し、2025 年 4 月に実行委員会が立ち上がりました。
月 1 回の頻度で打合せを行ってまいりました。

実行委員会のメンバーをはじめ、本フォーラムの開催に関わってくださった仲間、そして参加し

くださった仲間に心から感謝申し上げます。

おかげさまで開催にこぎつける事ができました。

ゼネラルサービスフォーラムとは、サービスのラウンドアップのようなものであると考えております。サービスに関わっていく事は、大変な事でもあると思います。しかしそれを超える事が喜びと成長をもたらしてくれる事も事実です。

本フォーラムを通して、皆様がそれぞれの充実したものを感じていただけると嬉しく思います。これをもって私の挨拶の言葉と致します。ありがとうございました。

パネル① 地域の現状と課題

司会 じゅん 丹生

「中四国地域の現状と課題」

中四国地域 岡山地区 岡山天神グループ カワダ

中四国地域は、中国5県、四国4県からなります。ミーティングは週 94 ミーティング行われています(毎週開催でない所もあり数は前後する)。

メッセージは病院 23 カ所、矯正保護施設は HP に掲載されているのは3カ所、他に刑務所など数カ所に行っています。

地域に登録されているグループは 55 グループ、他にレディースミーティングなど特別ミーティングが6あります。代議員登録グループは 17、他は連絡員グループです。

グループの分布は、広島 13、山口 17、島根3、鳥取2、岡山7、香川3、徳島3、高知2、愛媛5で、瀬戸内側に偏り、山陰や高知、徳島南部、愛媛南部は少ないという現状です。

地区は、山口、山陰、岡山の3地区です。以前は広島、四国地区がありましたが現在は3地区です。

地域については、地域集会在年3回開催され、評議会報告、ラウンドアップ経過報告、地域委員長や評議員、議長団・書記団の選出が主に行われています。参加者は、グループ代議員 10 名程、他に役割を持っているメンバー、オブザーバーを含めて 20～30 名程です。また、役割についても選出するのに苦労しています。評議員に関しては 2023 年度には、地域から評議員が選出出来ない事態となってしまいました。他の役割についても同様に地域集會に参加しているメンバーが複数の役割を兼ねているといった状況が何年にもわたり続いています。

地域委員会も矯正保護施設委員会が活動している以外では財務担当のメンバーがいる程度であり、機能していません。今年も地域内の精神病院からメッセージを再開してほしいと依頼があったのですが、対応する委員会が機能しておらず、病院側にご迷惑をおかけすることになってしまいました(このメッセージは再開が決定しました)。

地域委員会が機能していないため、本来地域が行うべき役割をオフィスに代行して頂いている状態が長きにわたり続いています。

代議員登録しているグループが少ない、かつてあった地区がなくなってしまった、地域集會への参加人数の減少、地域委員会が機能していない、など課題が山積しており、どこから手を付け

ていいのかわからない状態です。しかし、手をこまねいていたのでは良い方向には進んでいきな
いと思います。

直近の地域集会で、地域委員会についてという議題があり、参加者が課題や思いを共有しまし
た。議事録を見ますと、オンラインの活用、地域集会をハイブリッドで開催すれば遠隔地のメンバ
ーにも参加していただけるのではないかと、地域で zoom アカウントを持ったらどうか、解散した地
区の復活、「地域を考える会」開催を考えてはどうか、グループメンバーが少なく余力がない、地
域委員会の事は人数が増えてきてから考えたほうが良い、といったご意見がありました。

地域のメンバーは、それぞれの場所でミーティング会場を開け、メッセージに足を運び、広報活
動に勤しんでおられます。ミーティング会場を守り、メッセージに足を運ぶために遠距離の移動を
余儀なくされているメンバーも少なくなく、並大抵のことではないと思います。

イベントについても、コロナで軒並み開催できない状況となりましたが現在はラウンドアップも
再開され、各地区では定期的に OSM やフェローが開催されています。

地域の立て直しは一朝一夕にはいかず、時間がかかるとは思いますが、課題に取り組む過程で
サービスから距離を置いているメンバーを取り込んでいけるかもしれません。直接足を運んでお
願いをしていくことも必要なのかもしれません。いずれにせよ、コツコツと取り組んでいくしかない
のだと思います。

九州・沖縄地域の現状と課題

九州・沖縄地域 大分地区 iRis グループ としき

◎グループ活動状況

2025年10月20日時点の九州・沖縄地域では、登録しているグループが88グループあり内、
代議員グループが40グループ、連絡員グループが44グループ、休止グループが4グループとな
っており現状、代議員グループよりも連絡員グループの方が上回っている状況です。

地区別のグループ状況を見ていきますと

福岡地区は、代議員グループ15 ・連絡員グループ16 ・休止グループ1
佐賀地区は、代議員グループ1 ・連絡員グループ3 ・休止グループ1
長崎地区は、代議員グループ4 ・連絡員グループ1
熊本地区は、代議員グループ3 ・連絡員グループ3
大分地区は、代議員グループ3 ・連絡員グループ3
宮崎地区は、代議員グループ3 ・連絡員グループ3
鹿児島地区は、代議員グループ3 ・連絡員グループ15 ・休止グループ2
沖縄地区は、代議員グループ8 ・連絡員グループ0

また特別ミーティングが8あり、女性ミーティングが活動しています。

2019年12月末時点のグループ登録資料では、地域では82グループが活動しており、内訳と
しましては代議員グループが59グループ、連絡員グループが23グループとなっております。
比較してみますと、グループ数としては6グループ増えていますが、代議員グループが59グループ

から40グループと減少し、連絡員グループが23グループから44グループと増加傾向にあります。代議員グループと連絡員グループ数の逆転現象の原因の一つには、2020年に入り新型コロナウイルス感染拡大にともない緊急事態宣言が発出(はっしゅつ)され、様々な制限が課せられ、ミーティングを中止せざるを得ないグループも出てきました。コロナ禍をかわきりに、グループを離れてしまうメンバー、代議員グループとして運営維持が出来なくなってしまったグループもでてきたように思われます。グループの広がりとしては、各地区の傾向としまして都市部に密集して活動しており、主要都市から離れている市町村においてはグループ数が少なく偏りの傾向がみられます。

◎つづきまして地区の活動状況です。

九州・沖縄地域としましては8県です。それぞれ地区の活動をしています。

地区委員会におきましては、福岡・大分・長崎・熊本・宮崎・鹿児島が毎月第2日曜日に開催されています。沖縄におきましては第3日曜日に開催されています。

2025年度の主な地区活動状況としましては、1月の沖縄地区の迎春イベントから始まり、3月は宮崎地区、4月は長崎地区、5月は鹿児島地区、8月は宮崎地区、9月は福岡地区・沖縄地区、11月は大分地区がイベントを開催しました。

各地区委員会の役割状況です。主に地区委員、矯正・保護施設委員、広報委員とありますが、代議員グループの減少にともない、また輪番制を含めて委員が選出できない地区もあります。

◎地域の活動状況についてです。

地域委員会は、2月・6月・9月の第3日曜日に開催されています。

午前中は、3つの分科会にわかれ各委員会が開催されており各委員会としまして、

- ・総務委員長が取り纏め各地区委員、地域議長とで構成されている総務委員会。
- ・矯正・保護施設委員長が取り纏め各地区の矯正・保護施設委員とで構成された矯正・保護施設委員会。
- ・広報委員長が取り纏め各地区の広報委員とで構成された広報委員会です。

各評議員は、いずれかの委員会に参加しています。

2025年度におきましては、残念ながら各委員会に不在委員の地区もみられました。

午後からは、全体をとおして地域議長が議事進行をつとめ、総務委員長が副議長を兼任し全体会議を行っていきます。主な内容としまして、午前中に開催された各分科会の総務委員長、矯正・保護施設委員長、広報委員長からの報告。各地区委員からの報告。評議員からの報告。また議題ついて協議していきます。

地域集会は、4月・11月に開催されています。各グループ代議員と地域構成メンバーで構成され、集会を行っています。主な内容として4月は、地域予算の承認。11月は、地域の役割を第3レガシー方式で選出がなされています。被選挙資格等については九州・沖縄地域サービスガイドラインに沿って行っています。地域集会の構成メンバーのうち議決権を持っているメンバーは、各グループ代議員、各地区委員、各分科会の総務委員長、矯正・保護施設委員長、広報委員長、地域議長、オフィス委員長、前期評議員、後期評議員、前評議員となっております。

補足としまして、評議員代理は発言権がありますが議決権はありません。

◎ラウンドアップの開催

地域委員会主催で各地区が輪番制を持って毎年開催されています。通常輪番としましては、沖縄、宮崎、大分、熊本、長崎、鹿児島、福岡、佐賀と、九州・沖縄地域サービスガイドラインに沿って行われています。残念ではありますが、現状において佐賀地区ではメンバー不足によりラウンドアップが開催されない状態にあります。

2025年度におきましては、福岡地区がホスト地区となって、佐賀地区のメンバーが経験を兼ねて現地実行委員会に参加した体制で、地域と連携して開催されました。参加総人数は269名。

2026年度のラウンドアップのホスト地区は沖縄地区で開催日時は6月26日(金)～28日(日)を予定として実行委員会が開催されています。

◎問題点

新しいメンバーが繋がらない。定着しない傾向が見受けられます。都市部から離れた市町村のグループは特に傾向が強く見受けられます。一概には言えませんが代議員グループ、連絡員グループ数から見て、役割 サービスに無関心なメンバー、グループが増え、サービス離れがおきているようにも感じられます。サービスへの無関心さ、サービスに関わるメンバーの減少から、輪番制も回らなくなってきているようです。

◎課題として、

『役割 サービスに関わる上での述べ伝え』、『AA の回復・サービス・一体性についての述べ伝え』ができていないような気がします。今回の西日本圏ゼネラルサービスフォーラムのプログラム上のパネル②において、『サービスにおける述べ伝え』パネル④にて『輪番制の難しさ、厳しさ』についてのお話があります。地域の現状と課題についての解決策が見出せればと思います。

「関西地域の現況と課題について」

関西地域選出評議員 服部

1. 関西地域の現況について(2025年現在)

- ・関西に AA が伝わり今年で 45 周年
- ・関西地域におけるグループ数 約 85 グループ
- ・うち本年の代議員登録グループ数 28 グループ(昨年 40 グループ)

2. 各グループの状況について

ほぼ京阪神地帯にグループが集中しその他地方では数が少ない
和歌山県の大部分、兵庫県及び京都府北部、奈良県南部の過疎地域に AA グループなし
特に日本海側は皆無だが関西近傍では福井県に AA グループが所在
登録グループ数は約 85 グループあるものの少人数のグループが多い状況
代議員を経験した仲間は多いが、新たに AA に繋がり代議員をする仲間が少ない

3. ゼネラルサービスについて

①各地区の現状について(全7地区)

- 兵庫地区 関西地域の中でもサービス活動が盛んな地区
地区委員会への代議員参加は7グループ
地区内に治療施設委員会を設置
- 北大阪地区 グループ数約 30 グループ 地区委員会への参加は 2~3グループ
- 大阪南地区 近年、地区委員会への参加グループ数増 活況を呈している
- 泉州地区 サービス経験豊かな仲間が多く、地区委員会も安定して運営されている
- 京都地区 地区委員会への参加グループはほぼ京都市内のグループに限られている
参加は4グループ 京都府内北部との繋がりが課題
- 奈良地区 奈良県の地理の特性上、他地区との連携が難しくグループ数、メンバー数
ともに少ない 地区委員会は現在休止中
- 滋賀地区 大津・草津・米原等にグループが存在し高齢の仲間の割合が高い
地区委員会は休止中 代替の存在として AA 滋賀が活動している

②地域委員会について

- 毎月大阪市内で開催 委員会構成 11 名(地域役員3名、地区委員 6 名、評議員2名)
※地域委員会付サービス委員会なし

③地域集会について

- 年 4 回開催 全て大阪市内にて開催
参加議決権者数は約 25 名(うち参加代議員数 14 名、地域委員会構成員 11 名)
※議決権者数の4割を地域委員会構成員が占有

④地域委員会主催イベントについて

- ようこそ AA(兵庫、大阪南地区にてそれぞれ開催済)
サービスの集いを来年開催予定

⑤評議員活動について

- 兵庫、泉州、京都、滋賀地区にて評議会報告会に参加
また、北大阪・大阪南地区合同イベント「みんなの評議会」に参加
その他の活動として代議員オリエンテーションに参加

4. ローカルサービスについて

- 大阪市西区北堀江にてセントラルオフィスを運営
地域ローカルサービスの拠点として機能
関西ではローカルサービスが盛況
セントラルオフィス集会の参加議決権者数は約 30 名
他地域では地域委員会付として設置されている各種サービス委員会が関西ではセントラルオフ

イスのサービス体系下にて活動中

※各種サービス委員会

矯正保護施設委員会、ラウンドアップ委員会、広報委員会、ぶどう樹編集委員会、ホームページ委員会、迎春ワークショップ実行委員会、コンベンション実行委員会

※セントラルオフィス運営委員が各サービス委員会にも出席しており負担が大きい状況

各サービス委員会の活動報告はセントラルオフィス集会にて実施

本年は関西地域 45 周年記念コンベンションを 8 月に実施

年末年始は迎春ワークショップ(宿泊イベント)、2 月にラウンドアップを開催予定

5. その他(関西地域の特徴)

- ・地域サービス(地域集会、セントラルオフィス集会等)の開催場所が大阪市内に集中
- ・経験豊富な仲間が多く、新しく繋がってくる仲間が少ないため、輪番制が機能しにくい

パネル② サービスにおける述べ伝え

司会 くにこ 笹井

「サービスの述べ伝え」

中四国地域 香川 栗林グループ まい

・約30年前の四国のAAについて

1996年(平成8年)四国には4つのグループがあった。ミーティング回数は、2グループが月に1度、1グループが毎日、現栗林Gは週2回+第1日曜日。

病院も今みたいな手厚いプログラムはなかった。ミーティングもない。行くところない。

「ない、ない、ない！」という状況だった。

「飲まない仲間と一緒にいることが一番安全だから」と、お酒が止まってから早いうちから、仲間と一緒にメッセージや地域集会にも参加することに。

おそらくグループは誕生して1年半か2年くらい? 経験者がほとんどいない中、幸運が!

経験のある先行く仲間が、長期出張で香川にいて「回復・一体性・サービス」を伝えてくれた。

第1日曜日のミーティングには、ほぼ毎月高知から仲間が来た。終わったら、高知グループのミーティングに遅れる、と言ってさっさと帰っていった。大阪からも多くの女性の仲間が来てくれた、岡山からも来た。

「この人たちはなぜ来るんだろう? ミーティングが無いわけじゃないのに??」

ただただ、新しいグループができたことや新しい仲間と会うのが嬉しくて楽しくて、力になりたいという気持ちを感じられた。

だけど遠方からくる理由が私には理解できなかった。

・お泊りイベントの中で

かつて、雑魚寝のお泊りイベントがあった。

そこで、「メッセージ先の病院から誰も来ないと連絡があった」や「ミーティング行ったら閉まってい

て飲みそうになった」など、色々なことが話されていた。

時々突然意見聞かれる。分かるはずない。でも質問されて答えられなかった時、聞いてないとか分かってないと思われるのが嫌で真剣に聞いていた。

それがサービスの話だとも分からないまま・・・

サービスが何かとかやりたいとかいう前に自然と耳にしていて当たり前のもので受け取っていた。

・楽しそう

中四国ラウンドアップ実行委員として参加した後、他地域のR-UPに参加した。

「楽しそうに実行委員をやっているのを見て、私も実行委員やってみたくなって、なりました」と、声をかけられた。

楽しそうだと思うとやってみたくなるんだ、とそのとき感じた。

・この指とまれ

どうしたら四国に地区ができるのかと考えていた時に、いただいた提案があった。

「なにかイベントをしよう、この指とまれって指を出せばいいんだ、その指に止まった仲間から一緒にやればいい、楽しそう、自分たちもと思えばあとからついてくる」

地域に登録のなかったグループに、ラウンドアップのお誘いに行く。

彼らはラウンドアップに日帰りで参加し、AA30周年でも出会う。

ある日彼らが訪ねてきて言った。

「もっと四国の仲間に出たい」「一緒になにかやりたい」と。

地域委員会があること、登録すると情報がもらえることを誰からも知らされていなかった。

彼らのこの指にたくさんの四国の仲間が集まった。

色々なことを計画したり、OSMの会場のブレーカー落としてみんなで慌てたり、会議中にキレて帰っちゃう仲間がいたり、でもまた次回くる。

大変＝楽しくないではない。大変でも楽しいものは楽しい。

四国の有志の集まりから四国地区へ、そして四国から評議員が久しぶりに選出された。

その後地区は解散。しかし当時の仲間とのつながりは深いような気がする

・「この指とまれ」と「楽しそう」

何かを一緒にやっているうちに自然にサービスは述べ伝えられているような気がします。

大変じゃないとは言わない。それでもだれかと一緒にあれば、1人でも多くの仲間と一緒にだと・・・楽しいこと、嬉しいこともたくさんある。 一緒にやってみよう

「サービスの述べ伝え」

九州・沖縄地域 前期評議員 貞方

まず初めに私の酒歴を話させていただきます。私が本格的に飲み始めたのは17歳からで高校を中退して働き始めた時からで、その頃は就職した時点で大人扱いだったので、先輩にスナックに連れて行ってもらったのが本格的に飲み始めた形です。ほぼ毎日飲んでしまいましたが、お酒を飲

んで崩れる事も無かったのですが、40歳を過ぎた頃から時々ブラックアウトを起こすようになり、46歳の時に突然、「自分は何でこんなに必死に働いているんだろ」という思いになって、自殺未遂をして、その後3年半ほどは、朝から晩まで飲み続けていました。私のラストドリンクは2008年6月3日でその時は暴れる為に飲みました。

それで警察のお世話になり、警察署から直接、精神病院に入院して、その時にアルコール依存症と診断をうけました。今でも不思議なのですが、入院生活が3ヶ月あるので、自分の人生を振り返って見ようと思って、自分を見つめ直した時に、自分がいかにわがままで自分勝手だった事と自分で何の努力もせずに、与えて貰う事ばかりを求め、何も行動していなかった事に気づいて、これからは提案されたことは、結果を恐れずにチャレンジして行こうと思い。それが、私の回復に向けての方向性となりました。それは今でも変わっていません。

私がサービスに関わり始めたのは、9月に病院を退院した翌年からで、副代議員の役割を仲間からお願いされた事がきっかけで、AAの事は何も知らない状態で、初めての地区委員会に参加した時に仲間が議論をしている姿を見て、凄いなと思いました。私は気が小さいので、自分の考えや思いを発言するのが、怖くて出来ない人間なので、活発に発言する仲間の姿を見て尊敬すると共に羨ましくもありました。

副代議員を1年間して代議員と副広報員を兼務する事になりました。その時も前年の地区の役割選出の時に無意識に広報の役割をしたいなと思って立候補をしようと思ったのですが、ソブライティ2年にも満たない状態で二つの役割を持つのは無理があると思ったので、声を挙げなかったのですが、仲間からの推薦があつて副広報委員になりました。その時思ったのは、神様がチャレンジしなさいと言っているんだなと思い、2年間代議員と副広報委員を務め、翌年は広報委員としてサービス活動に関わらせて頂きました。

述べ伝えという観念では、次にグループの代議員をしてくれた仲間に対して自分の経験を伝える事に関して悩む事もありました。全てを助言するのはその人の経験を奪う事になるし、かといって伝えなければならぬ事もあるしと、思いながら相談を受けた時に経験を伝えて行く事にしました。

広報の役割として伝えてもらったのは、医療行政に対しては、アポイントを取って直接会いに行つてAAのイベントの告知などをする事が大切だと教わりました。私が経験した中では、久留米で初めてOSMを開催した時は、開催地の保健所はもちろんの事、その周辺の保健所にも出向いて直接チラシを手渡して参加の依頼をしたり、また地域規模、全国規模のイベントがあつた時は広報先を広げるチャンスだと思い、今まで関わっていなかった医療関係にイベントの告知を兼ねて、病院へのメッセージをさせてもらうお願いをしにいきました。上手く繋がったのは1件だけだったので、今現在も10年以上その病院にはグループとしてメッセージを運んでいます。私が思う広報の活動は、AAのメッセージを運ぶ所を探して増やして行く事だと思っています。

その後5年間ほどは仕事の関係上、AAのサービス活動からは離れていましたが、退職した後には仲間から地域の役割をお願いされて、またサービス活動に関わる様になり、始めに地域広報副委員長を一年間したのちに地域広報委員長を務めましたが、コロナ禍の中、地域の広報委員会は一度だけの開催で、後は何もできないままおわりました。その後は地域の副議長兼総務委員長

の役割を頂き、地域議長と共にまず手始めに取り組んだのがオンラインでの地域委員会の開催でした。コロナの影響で2年間ほど委員会が開催出来ていなかったのですが、書面にてオンラインでの地域委員会について決議を取りました。今でこそオンラインでの会議やミーティングになど当たり前になっていますが、その時は反発も多かったのですが、結果的に賛成して頂いたグループが多く結果オンラインでの地域委員会を開催しました。その時も少し強引だとは思いましたが、話し合う場を作らないと先には進めなという思いは皆一緒だったというのが私の感想です。

今現在は九州・沖縄地域の前期評議員という役割を頂いています。評議員に選ばれた時は自分が役割をこなせるのか不安でしたが、これまで役割を経験した上で、役割の最中は勉強する学びの時間で、上手く出来なくても役割を続ける事が、自分の成長に繋がり、その経験を通してAAのサービス活動を述べ伝えて行くことが、また私の仲間に対しての役割だと思っています。

改めて、AAの役割は自分の成長の糧になると思います。そしてこの経験を仲間の為に伝えて行きたいと思います。

「サービスの述べ伝え」

関西地域 泉州地区 北野田グループ ホテル

私は平成2年に、通院していた病院から紹介されてAAに来ました。ミーティングに通っているうちに、当時のグループの仲間から昼間は関西セントラルオフィスへ行くように言われ、毎日のように行きました。その頃のオフィスは初代の職員が退職されたところで、新しい職員の方がいました。私は行き場がなかったので毎日オフィスに通っていました。そこで先行く仲間がいろんな話を聞かせてくれましたが、その時の私には難しい内容でなかなか理解ができませんでした。AAの3つのレガシー、共同体、一体性……。何もわからない私にたくさんのことを熱心に教えてくれました。

お酒が止まってしばらくして、大阪の仲間が誘ってくださり、四国の栗林グループの仲間のところへメッセージに行くようになりました。毎月1回、仲間の車に乗せていただき、とても楽しい時間でした。そこではお湯を沸かし、コーヒーの準備をし、ミーティング会場を開けて、地元の仲間をとにかく待つことをさせていただきました。

関西では各グループがそれぞれ宿泊の集まりや食事付きのオープンスピーカーズミーティング等を開催していました。関西ラウンドアップでは関西以外の地域からも多くの仲間が足を運んでくださいました。そこで初めて、私は矯正施設のメッセージのことを知りました。先行く仲間の話を聞かせていただき、AAはとにかく行動するところなんだと感じ、私もできる限り歩くことを続けさせていただきました。

関西地域は良くなってきていると感じています。私がAAに来た頃と比べたら仲間はずいぶん増えました。グループでちゃんとビジネスミーティングが開かれていますし、グループで病院メッセージにも行っています。グループでできない時は有志で集まってメッセージを運ばせてもらったこともありました。現在は関西地域から途切れず評議員が出てくださっていますし、新しい仲間がステップをやって元気にサービス活動をしてくださっています。そのことをとても嬉しく思っています。今日はこのような機会を与えていただき、ありがとうございました。

パネル③ 遠隔地の仲間はどうやってメッセージを運ぶか

司会 杏里 石川

「遠隔地の仲間はどうやってメッセージを運ぶか」

～第四水曜日の会 ハイブリッド会場の経験を中心に～

中四国地域 山口地区 ゆかりグループ Osamu

第四水曜日の会は、毎月第4水曜日に有志のメンバーで集まってミーティングを開いているハイブリッドの会場です。先般のコロナ騒ぎの時にミーティングがないと生きていけないという仲間が内々で密かに始めたミーティングで、現在も毎月第4水曜日限定で続いています。

山口県の AA 事情を紹介しますと現在県内には19の AA グループがあり明確な区分けはありませんが、東部に3グループ、北部に2グループ、西部に14グループあります。西部にある14グループのうち半分の7グループが宇部市内でミーティングを開いています。

コロナ禍の際に宇部まで来られないがミーティングに参加したいという仲間がいたためハイブリッド化しました。当初は無料のスカイプから始まり有料のグーグルミート、ズームとプラットフォームも進化してきました。これは参加者のアノニシティと通信事情に配慮したのですが、こちらの負担は増えていっています。ただオンラインの参加者は当初のメンバーから増えず、最近県外の仲間へも呼びかけを始めたところです。

宇部市内にはアルコール依存症に関わる 3 つの病院があり県内から多くのアルコール依存症者を受け入れています。オンラインを始めたきっかけにミーティング会場のない県東部や北部の地元に戻った仲間が AA につながってられるようにという目論見もありましたが、そのような仲間が一度も入ってくれていないというのが事実です。地区委員会の特別会場として週間スケジュールに記載してもらったり JOI のミーティング案内に掲載してもらったりと色々と試行錯誤をしている状態です。ハイブリッドになった当初から独自のホームページは開いており県内の仲間に向けた情報の発信もしてきました。

山口県内ではまだまだ AA の認知度が低く病院に奨められてミーティングに来るという仲間がほとんどです。

山口県内ではオンラインミーティングに参加しているメンバーは限定的で、第四水曜日の会はオンラインミーティングを行っている唯一の会場です。他の AA メンバーは他県のミーティングに参加して受け取るというのが、一般的なスタンスとなっています。

私が男性ということもあり、なかなか女性メンバーの役に立てていないというのが実状です。

入院の経験もなくオンラインにつながってきた男性も何人かいました。NET でアルコール依存症を調べていてオンラインミーティングにつながったというパターンです。

山口の AA も関東の仲間が実際に足を運んでメッセージをしてくれ、書籍をいただいたところから始まったと聞いております。

以前はグループのあった北部の萩市で HS グループが出張ミーティングを継続的に開催しました。この甲斐あって現在では萩にも AA グループが復活しミーティングが毎週開かれるようになっています。第 2 段としてやはりかつてはグループがあった防府市で第 1 回目の出張ミーティン

グが開かれたところです。グループが活性化すれば出張ミーティングやイベントもできメッセージをしているという手応えを感じられるとのこと。

インターネットや LINE に頼り切らず、実際に足を運ぶことの大切さを思い出させてくれた事例だと思い、紹介させていただきました。

遠方の仲間にメッセージを運ぶために文明の利器を利用することは非常に有効な手段だと思います。しかし、そういう機器に不慣れな AA メンバーもいます。また、直接顔を合わせないため実際の様子がわからず、本人が何を求めているのか、メッセージがちゃんと伝わっているのかどうかの判断も難しいところです。

私たちには新しい仲間が必要です。ミーティングがない場所にいる遠方の仲間に対して私たちに何ができるのかをしっかりと考えていかなければなりません。仲間と一緒に行動を続けていくところ、山口の AA を存続し発展させていくカギであると確信しております。

「遠隔地の仲間にどうやってメッセージを運ぶか」

九州沖縄地域 沖縄地区 首里グループ カンナ

遠隔地の仲間にどうやってメッセージを運ぶか、といひましても大きく二つに分けられると思います。まず表題に入っております『メッセージ』というワードから連想する、今苦しんでいる仲間に我々自助グループの存在や飲まずに生きていける事を伝える事と、もう一つは AA に既に繋がっている仲間との経験の分かち合いについてです。

後者の経験の分かち合いについては、他のグループのミーティングに参加する、ラウンドアップやフォーラムなどのイベントに足を運ぶ、ここ数年であれば、オンライン(Zoo 等)を活用して参加する、等々いろいろな選択肢があると思いますが、いずれにしてもある程度 AA と繋がりがあったり情報を手にしている仲間が自発的に行なえることなので、いったん脇に置きまして、ここでは今苦しんでいる新しい仲間にメッセージを運ぶ事をメインに話を進めさせていただきたいと思います。つまり AA に繋がる取っ掛かりについてです。

以前、20年以上まえであれば、直接、個人やグループ数人でアルコール病棟のある病院を訪ねて、病室で入院中の仲間へ書籍を手渡ししてメッセージを伝えるといった事も行われておりましたが、病院側の管理体制に関する意識の変化や、近年においては、感染症対策等もあり、このようなメッセージ活動は行われておりません。

現在は医療・行政施設に対して広報活動を行い、医療機関であればミーティングを開かせていただいたり、行政施設職員に対してはモデルミーティング等とおして、未来の仲間を AA 主催イベントや、各グループが開いているミーティングに参加する事を薦めてもらう、という事が主流になっています。

では、医療・行政との関係性を築く為には、我々に何が出来るのでしょうか。

私自身が見聞きした仲間の経験からヒントになりそうなお話を少しさせてもらいます。

まず、関係性の希薄な機関・施設に対しては、近隣でのイベント告知を名目にリーフレット等を準備して定期的に足を運び続ける。運良く担当者にお会いできる機会があったなら AA の活動説明

と共に、他の機関や施設で行っているメッセージ活動の実例を具体的にあげ、協力や参加をお願いする。これでミーティング場の確保や病院メッセージに繋がったことがありました。

関係性がある程度出来上がっている機関・施設には、イベント告知・ミーティング場案内等、情報の伝達を途切れさせないようにする事と、行政機関であれば人事情報にも気を配っておいた方が良いでしょう。県レベルでいえば、〇〇センター等では医師が所長職を務めるのですが、以前患者と担当医という関係性のあった仲間がご挨拶に伺ったら以後イベント会場として長らく使用させていただく事ができた上に、離任の折には後任の方に引き継いで下さったようで、4月に新所長さんの元へご挨拶に伺ったところ大変好意的で、以後毎年イベントごとに開会時のご挨拶をしていただけるようになりました。

県レベルで部長・所長クラスになりますと、その方の関心の高さによって自助グループへの対応も変わってくるようなので、以前はどこにおられたのか、移動後はどこに移られるのかくらいは、気を付けておいた方が良いでしょう。ひょっとしたら新たなメッセージ先に繋がるかもしれませんし。あと国の管轄である、保護観察所等の機関ではある程度以上の役職者になると九州管区内外へ移動される事も珍しくないようで、地元で何度かお会いした職員さんが他地区に移られたとの話を耳にします。これらの情報は各地区のみではなく地域各種委員会を使って情報共有が出来れば、広報・メッセージ活動に有用だと思います。

ちなみに、県幹部レベルや出先のある国の機関の人事は春先には地元紙にも掲載されます。

余談になるかもしれませんが、新しい仲間との接点の場としては10数年前に遠隔地にある病院のARPに合わせて院外自助グループに参加しやすいよう、新規のミーティング場を開いた事もありました。これは当時の仲間が職員さんや患者さんの「AAは会場が遠い」との発言を受けて始まったものだと記憶しています。職員さんとの良好な関係性と仲間達のフットワークの軽さには今更ながらですが頭が下がる思いです。

話ながら思い出したので、付け加えさせていただきました。ありがとうございました。

「遠隔地の仲間はどうやってメッセージを運ぶか」

関西地域 滋賀地区 オネスティ唐崎グループ とら

まず確認したいのは、AAの目的を達成する「広報の方針」が、1956年の「アメリカ／カナダ評議会の声明」に示されていることです。

それには、

「一般社会に対するどのようなAAの活動であっても、AAの唯一の目的はいま苦しんでいるアルコールを手助けすることである。個人のアノニミティの重要性を常に心に留めながら、いま苦しんでいるアルコールと、この問題に関心を持つ人たちに、個人のレベルにおいても共同体のレベルにおいても、飲まずに生きることを学んできた経験を伝えていくことで、この目的が達成できる」とあります。

つまり、AA広報とは「飲まずに生きる経験を伝えていくことだ」と言っています。

そこで、滋賀県という、AAメンバーも少なく、ミーティング会場も少ない、「田舎＝遠隔地」と言

ってもいい地域における「飲まずに生きる経験を伝えていく」ことに関するAAの活動について、報告します。

まず、滋賀県のAAですが、1988年に彦根ミーティング、1989年大津ミーティングが開かれ、京都などのAAメンバーに支えられてミーティングが維持されていました。

1994年4月に「AAびわこグループ」が自立し、滋賀の専門病院へのAAメッセージ等が開始され、自立したAAサービス活動が始まりました。

①文章は、時間と空間を越えて、人々に「経験」が伝えられます。私たちは「田舎＝遠隔地」こそ「経験を伝えるには文章化したほうがいい」と考え、経験を文章にする努力をしました。

1999年から毎年、「ニューズレター滋賀」という、各自の経験を書いた冊子を春と秋に発行しています。医療等関係者の原稿も寄せられ、A4で約30ページです。27年間、欠かすことなく発行しています。

②「遠隔地＝田舎」では「粘り強く継続して実行する」ことが必要です。

1997年から、宿泊付きのOSMを、28年間、毎年5月に開催してきました。医療等関係者も参加してスピーチしてくださいます。

③1994年8月から、毎月1回専門病院へのメッセージを届け、31年間ほぼ毎月、継続しています。

④また、滋賀県内の医学部や専門学校看護学科の「授業」でAAを紹介し、経験を話してきました。2001年から、25年間続けています。

⑤2009年に「AA滋賀のホームページ」開設。

連絡事項等を掲示しており、飲まないで生きる経験を書いた「ニューズレター滋賀」(21号～54号)や「シニアアルコールクの経験集/1～6号」も閲覧できます。

⑥2003年にAA滋賀の月刊予定表「葦笛(よしぶえ)」を毎月発行し、ミーティング場や病院、保健所に届けて、AAの活動の詳細を知ってもらっています。現在266号、22年間継続中です。

⑦最後に、遠隔地の高齢のアルコールクの状況についてです。

2002年9月、JSO主催で「第1回AA日本 広報&病院施設フォーラム」が、滋賀県近江八幡市で開催されました。医療関係者100名以上が参集され、盛況でした。

私には、滋賀の保健師さんが全体会で発言された内容が心に残っています。

保健師さんは、滋賀県湖北の農村での実例を話されました。

「79歳のお年寄りが、飲酒で体調を悪くし、保健所に家族で相談に来られた。自助グループに参加して飲酒をやめていくことになったが、近くに自助グループがないので、結局、内科通院と、保健師が定期的に訪問することで断酒を続けることになった。しかし、うまくいかなかった。田舎の高齢者が飲酒をやめていくには困難が多く、現状は見殺し状態のようなことです。AAのみなさん、ともに解決に向けて進んでいきましょう」と発言されました。

これは、23年前の「滋賀県の中の遠隔地の実態」についてのご指摘です。「田舎の高齢のアルコールクは見殺し状態」という指摘には、胸が痛いです。しかも、いまま同じ現状なのです。

私たちがシニアミーティングを始めたのは、最近です。私たちは、微力ながら、シニアミーティングとシニアアルコールク経験集の発行に力を注いでいこうと思っています。

常任理事会プレゼンテーション

ゼネラルサービスオフィス JSO スタッフ紹介

司会 笹井

JSO 国際・出版担当の業務内容

田崎

<国際業務>

アメリカ／カナダ GSO をメインに他国 GSO との連絡や情報交換、日本にいる外国人アルコールや海外在住の日本人アルコールへの対応、日本のメンバーに北米のニューズレター記事を紹介、海外イベントの紹介、英語その他の言語の書籍取り寄せ、日本の記念集会に参加する海外ゲストの対応、参加者のビザ申請、WSMやAOSMへの登録など。

<出版業務>

評議会で勧告または計画の承認を得た AA 出版物の発行(翻訳・校正含む)
英語版の改訂に伴う修正作業
法的な手続き

AA内外に対する著作権保護

翻訳・複製・配布に関するライセンス申請
著作権譲渡契約
ニーズに応じた書籍の紹介
アマゾンへの商品登録・管理・発送

アメリカ・カナダAAが発行している書籍はすべて翻訳することが過去の評議会で勧告になっている。ただし、日本の文化に関係ないもの、例えば、軍隊や黒人、ネイティブアメリカン向けのパンフレットなどは対象外。

誤訳などの確認作業は訳者とは別の人が行う。校正では、他のAA書籍と表現を合わせたり、漢字表記を新聞レベルに合わせる。

AAWS社に著作権があるものを出版するために、翻訳・出版・頒布のためのライセンス申請を行う。

メンバーがAA書籍の文章を抜粋する場合は、文末に以下のクレジットラインを明記し、句読点や強調を忠実に再現する。

例 (AAWS の許可のもと『タイトル』〇ページより抜粋)

外部の機関が抜粋する場合には、原稿の段階で文章を確認。

JSO 所長 業務内容

曾根

2025年1月よりJSOの所長職を拝命いたしました曾根です。

まずみなさまにお詫びを申し上げます。BOX-916を定期購読して下さっているグループと個人に向けて、7月号と8月号の発送に遅れや発送漏れが発生し、ご迷惑をおかけしました。発送先データを管理するプログラムの取扱いに不手際があり、発送用ラベル等を作成できなかったことが原因です。また、毎月の定期発送でお知らせしている月次の会計報告について、5月分・10月分の報告は翌月にまとめてお知らせすることになったことも併せてお詫び申し上げます。5月分については業務の引継ぎ不十分で期日までに集計が間に合わなかったこと、10月分については会計用PCの不具合で会計ソフトの運用が一部できなくなったことが原因です。いずれの問題も理事をはじめみなさまの協力を得て現在は正常に運用できており、反省をふまえてシステムの見直しやバックアップ体制の構築に取り組んでいます。メンバーのみなさまにはご心配をおかけし、申し訳ありませんでした。また、みなさんからお叱りとともに温かい励ましの言葉も多くいただき、感謝しております。

JSOで担当している業務は、発送業務(定期配布物・BOXとニューズレター・書籍)、グループ情報の管理、会計業務、評議会事務局長としての運営管理、外部との連絡窓口等になります。

発送業務について、毎月グループにお届けしている定期配布物の発送は、現在はダイレクトメールの専門業者に業務を委託しています。配布物のデータと発送先を業者に渡し、印刷・封入・ラベル作成とゆうメールでの発送を委託しています。BOX-916は都内の福祉施設に委託しています。JSOで作成した宛先ラベルと払込票をお渡しし、施設の利用者さんが施設職員の指導のもと封入作業をしてJSOへ届けてくれます。そのため、書籍などを定期発送物やBOXと一緒に送ってほしいというご要望には現在はお応えできません。ご理解いただけますようお願いいたします。

会計業務では、みなさまからの献金(ゆうちょ口座への振込、クレジットのスクエア献金、JSOへ現金での献金)の受付と集計をし、その献金の使い道を毎月の会計報告でみなさんにお知らせしています。

評議会の運営については、ボランティアの評議会事務局員メンバーに多大な協力を頂いています。評議会はAAの根幹ですが、提出される議題が減っていたり、評議員の選出が困難な地域があったりと、問題は少なくありません。メンバーのみなさんとともにAAの存続のために考え、行動していきたいと思っています。

今年は急遽決定したオフィスの移転に伴い、業者や行政など外部と連絡や交渉が多くありました。物件探しからスタートし、オフィス内の整理や引越し荷造の準備を進めながら、新家主や業者との契約と支払、旧オフィス退去の手続きと精算、取引業者への連絡と住所変更手続き、行政機関への届出や登記手続き等がありました。多くの仲間の協力のもと業務を中断することなく運営を継続できていることに感謝いたします。たくさんの方から応援の言葉とともに献金を寄せて頂きました。ありがとうございました。

引越しによりJSO周辺の環境が変わりました。以前はマンションの1フロア貸切で周囲のお

付き合いはありませんでしたが、オフィスビルに移転してからは受付や警備の方、他のテナントの方々と会話する機会が生まれました。NPOの看板を出していることで、「どんな社会貢献活動をされていますか？」と尋ねられることもあります。社会資源としてのAAを社会のみなさんに知ってもらうために、オフィスだからこそできる行動があると感じています。

所長交代やオフィス移転などにより、メンバーにご心配やご迷惑をおかけしたことを改めてお詫びします。みなさんが関心を持ってご意見を寄せてくださることで業務も改善されていきます。みなさんのお困りごと解決のために努めてまいりますので今後ともJSO運営にご協力をお願いいたします。

A 類常任理事からのメッセージ

司会 郷

「社会資源としてのAA」

A 類常任理事 大嶋 栄子

今日は北海道札幌市からお話しさせていただきます、A 類常任理事の大嶋です。

私は、札幌市でさまざまな困難を抱える主に女性を支援するNPOを主宰しています。アディクション問題とは精神科医療機関で出会い、現在は国の機関で女性依存症の研究をしながら、地域で女性たちの生活再建と就労支援を行なっています。

私が医療機関で働いていた1990年代の依存症という病気の捉え方は、アルコールを例にあげると「飲み続けて肉体的／社会的な死を迎える」か、「完全にアルコールを止める」かのどちらかを選ぶしかない、というものでした。

しかしそれから35年の月日が流れ、依存症を取り巻く状況は大きく変化しました。まずは止めることから始まらない支援のあり方が模索され始めています。というのも現在、地域で私たちが直面しているのは、ゆっくりと社会生活がままならなくなる若年女性のアルコールと市販薬、処方薬をODするような現実です。その背景には、親からの虐待をはじめ、学校でのいじめや職場でのモラハラなど、さまざまな暴力の傷跡が見えます。

一時的に辛い、苦しい気持ちから逃れるためにアルコールや薬を過剰摂取することを繰り返す中で、徐々にそれらが手放せなくなる。この構図は、AAメンバーの皆さんの体験と重なる部分が多いと思うのですが、彼女たちが生きている2025年は、依存物質をやめてさえいればなんとか生きられると思えない社会として認識されています。日本では女性労働者の多くが非正規雇用で不安定な労働環境に置かれていることは、コロナ禍でたくさんのエッセンシャルワークに就く女性たちの雇い止めがあったことから明らかです。アルコールやくすりを使わなくても安心して生きていける環境を整える、今日、私たちが援助場面で行っているのは、そういうことなのですが、AAは彼女たちが自分のアルコールとの付き合い方について知るための、大切な資源です。

次にAAについてメッセージを運んでくださるみなさんをお願いします。

AAは、ひとりのアディクトとしていられる場所ですが、アディクションを必要とする背景には、その他の障害、ジェンダー、暴力被害、貧困といった困難さが複合的に重なっていることが多いです。

AA は、すでに多くの多様なメンバーによって構成されていますが、古いメンバーたちが蓄積してきた文化・知恵だけで対応できないすれ違いが発生することに、目を向けてください。そして、これまで社会からこころない偏見の言葉が投げかけられていても、自分たちの共同体が信じる原理を大切に、地域社会のなかでアディクトのための居場所を守り続けてきました。この素晴らしい財産を手放さず、そして現在も社会におけるさまざまな少数派が生きられる場所になっているかを、常にみなさんのなかで確認してほしいのです。

具体的には次のことについて考えてみてください。第一に、ミーティングにおけるアノニミティは守られているでしょうか。そして新たに会場を訪れた人が歓待され(AA に関するインフォメーションが適宜実施されて)、ここに自分が居てもよいと思える場所になっているでしょうか。第二に、ミーティングはジェンダー／民族／人種／障害の有無といった“多様性”に対応した場所になっているでしょうか。集まった人たちがこれらの違いを受け入れつつ、アルコールがもたらす課題を振り返り直面するという、共通の目的を果たせる雰囲気があるでしょうか。第三に、時代の急速な変化を背景に変化していく仲間たちの体験を吸収しつつ、自分たちの変化と成長を紡ぐ言葉を柔軟に生み出していけるでしょうか。

AA が今後も、社会のなかで様々な異なりを抱えながら、仲間たちの存在を通して自分と向き合える大切な場所であり続けることを願っています。

「医療現場から AA へ提案」

A 類受任理事 菅沼 直樹

私は愛知県の精神科病院で、アルコール依存症の治療に携わっている精神科医です。本日、初めてこのフォーラムに参加させていただき、みなさまの悩み、工夫、熱い議論と知恵に感銘を受けています。

日々、患者さんとお付き合いしている中で感じることなのですが、それは依存症の苦しみの中にいる方々が、強い「怒り」を抱えているということです。「思い通りにいかない」「本当に必要なものが手に入らない」「こんなことはありえない」という、世の中や自分自身に対する激しい怒りです。

ところが、今日ここに集まっている多くの方がそうであるように、回復されたみなさまを見ると、その「怒り」の質が変化していることにも気づかされます。かつては自分や他人を傷つける「破壊の火」だったものが、今は誰かを温め、照らすパッション、情熱へと変わっています。その姿は、私たち医療者にも変化を与えてくれるものです。

私たち医療者も、患者さんの苦痛にただ寄り添い続けるだけでは、時に燃え尽きてしまうことがあります。一方で、AA のメッセージには、単なる共感を超えた「力強さ」や「賢明さ」、そして「責任」が含まれています。このポジティブな動機を含んだ思いやりこそが、困難な状況でも前向きに動く力を生み出すのだと感じるのです。

苦しい時、人はどうしても拳を握りしめ、状況をコントロールしようとしてしまいます。しかし、時にその「握りしめた手を開く」ことが必要なかもしれません。

「あなたは違うかもしれないが、私はこうだった」と自分の話をする、経験の提示。そして、続けることこそが本当に難しい。決めるのは本人でしょうが、続けるのは仕組みです。AA の仕組みと知恵、これらが実際に機能している (It Works) ことを、私はみなさまの姿が証明しているように感じます。

どうか、回復した皆さんの姿を、一般医療の現場に見せに来てください。私たちアルコール治療をしている精神科医は、みなさまが回復していく姿を見る機会があります。しかし、救急外来や総合病院のスタッフ、救急隊や警察の方々が見るのは、いつも「一番大変な状態」だけです。彼らは回復の姿を見る機会がほとんどありません。偏見や誤解は無力感の裏返しでもあります。

かつて医療機関で傷ついた経験があるかもしれません。「AA? なにそれ?」と言われることもある。でも、それはメッセージが届くチャンスでもあります。気づきが人を変えることがあるのです。みなさまが元気で人生を楽しんでいる姿を見せることこそが、医療者の誤解を解き、まだ見ぬ仲間へのメッセージを届ける力になります。

あきらめないでいただきたいと思います。人が変わることはたやすくはない。だけでも、みなさまが今ここにいるのは諦めなかったからではないでしょうか。残念ながら命を落とす人もいます。回復は出会いやタイミング、ある種の「運」かもしれません。しかし、諦めなければ、いつか運が向く時が来るものです。

これからは、医療、検診、福祉の現場と自助グループがもっとつながっていく時代です。SBIRTS (エスバーツ) といって、広い入り口から専門医療、そして自助グループへという流れはさらに広がっていくだろうし、期待もしています。

私たちが希望をもって仕事をするためにも、みなさまの姿と声を届けていただきたいと思います。
本日はありがとうございました

B 類常任理事からのメッセージ

司会 今井

全国選出 B 類常任理事 財務担当 湯澤

今回は、ゼネラルサービスフォーラムという場でしたので、AA が「自分たちで支え合うこと」を学んできた歴史と、その原則が現在の財政にどのように受け継がれているかを共有しました。

1930 年代、ビルとボブは多くの人を助けたいという夢を抱き、そのための資金調達のために奔走しました。当時、ロックフェラー 2 世は、AA の活動に深い関心を持ち、財界の人達が集まる晩餐会にビル達 AA メンバーを招待しました。ビル達は資金が入ると期待しましたが、ロックフェラー氏は「AA はお金で壊れる」と危惧し、大口寄付を避ける判断を示しました。このおかげで、AA は外部の意見に翻弄されず、AA のプログラムを守ってくることができました。そして、紆余曲折を経て、AA は外部資金に依存せず、仲間一人ひとりの責任と献金によって自立する道を選択しました。

この精神は 1950 年に『伝統 7』として明文化され、AA の純粋性、平等性、永続性を支える重要な基盤となっています。したがって、AA を支えているのは偉大な寄付者ではなく、仲間一人

ひとりの小さな献金と大きな心であることを改めて感じました。

さて、2025 年は、BB 改訂版の発行、AA50 周年記念事業、書籍頒布額の増加、急なオフィス移転が重なりました。このため、JSO 財政は例年以上の収入を得た一方、主にオフィス移転による、収入以上の支出があり、2025 年度末決算は余裕のない状況であることを報告しました。詳細な情報は毎月 JSO の定期発送の中に、「財務所感」を入れていきますので、是非読んで下さい。

JSO への献金全ては、AA のメッセージ活動を支えるためのサービスのために使われます。金額的にオフィス家賃や人件費が目立ちますが、オフィスやそこで活動して下さるスタッフが、AA のサービス活動には不可欠です。私も含めたメンバー一人ひとりの献金や活動で、ゼネラルサービス活動を支えていきましょう!

全国選出 B 類常任理事: 出版、法人担当 丹生

ゼネラルサービスフォーラムにおける事業報告という状況を鑑み、まず出版事業の大きな意味での意義を報告いたしました。出版事業は AA の「世界的な一体性」を支える重要な柱であり、AA のメッセージの核心を変えずに未来へ伝えていくために不可欠な事業であると位置づけられています。具体的には、36 のレガシーに関する書籍・資料(12 のステップ、12 の伝統、12 の概念)を中心に、北米で出版されている書籍の著作権は AA ワールドサービス社が保有しています。AAWS 社はこれらの書籍を世界中へ内容をたがわずに、多言語・多地域で配布する役割を担っており、日本語版の出版は日本の GSO である JSO が AAWS 社の許諾を得たうえで出版しています。これらの出版物は、個人・グループ・施設で活用され、ミーティング資料やサービス活動の支援としても重要な役割を果たしています。

また、出版事業は経済的自立の手段でもあり、献金のみに依存せず活動を支える基盤となっています。同時に、初めて AA に触れる人にとっても理解しやすい資料を提供し、新しいメンバーや関係者などを支援する役割も担っています。

2025 年の出版実績としては、例年より大幅に頒布数および書籍印刷部数ともに伸びていますが、この要因としては改訂版ビッグブック出版、50 周年記念集会、他の自助会からの購入増加があげられます。

また、出版局と担当理事の間では、タスク管理スプレッドシートを活用し、業務の可視化と効率化を進めています。今後の課題としては、評議会勧告事項でもある、JSO ホームページにカート機能を持たせて書籍販売ができるようにするというようなオンライン販売の強化があります。この件は、各 CO やテクノロジー委員会と協調しながら進めてまいります。

法人部門報告としては、NPO 法人 AA 日本ゼネラルサービスにとって 2025 年は、やはり、JSO の移転が大きなトピックでした。常任理事会が一体となり移転を完了できたことは、今後の常任理事会にとって大きな財産になると考えています。半面、移転後に会計・在庫管理システムなどの問題もあらわれてきており、今後のシステム改変などの課題に対応してまいります。

東日本圏選出 B 類常任理事：広報担当 石川

本日は、広報活動と専門家協力委員会の取り組みについてご報告いたします。

はじめに、メンバーシップサーベイについてです。

2025 年 7 月 1 日から 10 月 31 日まで実施し、WEB と紙をあわせて 1,738 件の回答をいただきました。多くのメンバーの皆さんにご協力いただき、ありがとうございました。現在集計作業を進めており、2026 年 3 月までにまとめる予定です。

次に、「なぜ今、広報なのか」についてです。

アルコール依存症は今も生まれ続けていますが、AA を必要としている人が AA の存在を知らない現状があります。また、AA が宗教やカルトではないかといった誤解を持たれることも少なくありません。こうした誤解を防ぎ、12 のステップと 12 の伝統に基づく正しい情報を伝えていくことが、今あらためて重要だと感じています。

AA の広報の目的は、新しいメンバーをたくさん集めることではありません。

必要とする人が、いつでも AA にアクセスできる状態を保つことです。そのためには、アノニミティ、つまり無名性を守りながら発信していくことが欠かせません。

広報委員会では、ウェブサイトや SNS、パンフレットの整備、メディア対応、公共機関や地域社会からの問い合わせ対応などを行っています。また、AA の目的や理念を伝え、宗教ではないことや無名性について、正しく理解してもらうことにも取り組んでいます。

一方、専門家協力委員会では、医師や看護師、心理職、ソーシャルワーカー、依存症治、医療機関、地域包括支援センターなどの専門家に AA を正しく理解していただき、AA につながりにくい人を紹介してもらうための協ルートづくりを進めています。刑務所や矯正関係については、矯正担当窓口を通じた対応を行っています。

この二つの委員会は、活動内容は異なりますが、目指しているところは同じです。それは、AA に対する誤解を減らし、必要とする人が AA につながりやすい環境をつくることです。

広報委員会が社会全体に向けて「AA とは何か」「どのように利用できるのか」という土台を整え、専門家協力委員会が医療・福祉・司法などの専門家（現在は医療関係者を主な専門家）と直接つながり、具体的な紹介のルートをつくっています。

この二つが同じメッセージを共有し、一貫した伝え方をすることで、AA を必要とする人が、より自然に AA へつながれるようになると考えています。

今後の予定として、2026 年 3 月 29 日に「広報のつどい(オンライン)」を開催します。ロールプレイや友人のメッセージ、分かちあいを通して、広報活動に取り組む仲間が学び合える場にしたと考えています。

また、2026 年 10 月 24 日・25 日には、宮城県名取市の名取市文化会館で、東日本圏ゼネラルサービスフォーラムを開催予定で、現在準備を進めています。

広報活動と専門家との協力を通じて、必要とする人が AA につながりやすい環境を、これからも仲間とともに整えていきたいと思っております。

西日本圏選出 B 類常任理事:BOX・矯正担当 佐々木

西日本圏選出 B 類常任理事の活動として BOX-916、矯正・保護施設を担当しています。

最初に BOX-916 の成り立ちとして 1981 年に信濃町に AA ゼネラルサービスオフィスとして移転、現在の BOX-916 の前身である「7956」(信濃町時代電話番号)の発行が 1982 年から始まり 1986 年に池袋に移転、JSO が池袋に移転してから名称を BOX-916 に名称変更。

(現在の JSO 所在地は 2025 年から文京区)

BOX-916 の活動として BOX-916 編集委員会と 916 頒布促進委員会で二つの委員会があります。最初に BOX-916 編集委員会の活動を説明します。活動内容として主に BOX-916 の編集作業です。

BOX-916 の刊行の目的と編集方針として

日本に AA が生まれたばかりのころ、メンバーたちは日本中で苦しんでいるアルコールクの声を受けとめる窓口が必要だと考え、東京中央郵便局に私書箱を作りました。

BOX-916 は私書箱の番号です。

BOX-916 はミーティング場と同じように「仲間の声」をできるだけそのまま掲載し「活字によるミーティング」として、仲間ひとりひとりの経験と力と希望を分かち合う場にしたいと思っています。

掲載された記事は、個人の意見、考え方であり、AA 全体の方針や、AA 全体を代表する意見ではありません。また AA がその意見を支持しているわけではありません。

BOX-916 の刊行の目的はただひとつ「今苦しんでいるアルコールクに AA のメッセージを運ぶことです。」「仲間の声」をそのまま掲載し活字によるミーティング」として、経験と力と希望を分かち合う場とする。まだ苦しんでいるアルコールクたちの元が届き『飲まないで生きる希望の灯』となりますように！！と願いと想いの中で日々、編集作業を行っています。

投稿記事の編集作業として

投稿の呼びかけ→3ヶ月カレンダーの監修→投稿記事内容の企画(特集、投稿募集テーマ)編集作業の行程として、入稿 ⇒ 初校 ⇒ 初校戻し⇒ 再校 ⇒ 再校戻し⇒ 校了です。

BOX-916 へ投稿のお願い

「仲間の声」をそのまま掲載し「活字によるミーティング」として、経験と力と希望を分かち合う場です。あなたの想いを文字にしてみませんか。たくさんの仲間からの投稿をお待ちしています。まだ苦しんでいるアルコールクたちの元が届き『飲まないで生きる希望の灯』となりますように！

全国の AA メンバーの皆様からの経験の分かち合いをお待ちしています。

ポエム・絵・マンガ・書・写真など、それから「私のホームグループ紹介」や表紙に掲載したい写真もあわせて皆さんからの投稿をお待ちしています。皆さんと一緒に暖かい BOX-916 にしたいと願っていますので、どうかご協力をよろしく願いいたします。

次に 916 頒布促進委員会内容として編集以外の BOX-916 に関する全般の活動を担当する。

社会的に活字離れ、2020年コロナ過での影響でBOX-916の購読数減少により頒布促進活動を実施。主な活動内容として下記の取り組みを抜粋。

- ・JSO 定期発送でのBOX-916の購読依頼を作成/配布
 - ・JSO 定期発送でのBOX-916のアンケートを作成/配布/集計
 - ・BOX-916の投稿・購読用カード作成/配布
 - ・イベント等でのBOX-916への投稿と購読のお願い、BOX-916ミーティング開催
 - ・BOX-916 便り作成しNo1、No2、No3を配布。
 - ・JSOのホームページにBOX-916 便り/アンケート集計結果/BOX-916(AAメンバーの朗読)/2019年BOX-916を掲載中。
- 仲間の皆様、BOX-916の購読をお願いいたします。

次に矯正・保護施設活動を説明します。

「第27回評議会 全国8地域、持ち回りで矯正・保護施設フォーラムを開催する。」
目的として現地会場と配信型 Zoom 併用により全国の矯正保護施設関係者・専門家・関係者にAAの矯正・保護施設活動を広く知っていただくために行う。

第1回 AA 全国矯正・保護施設フォーラム

『社会資源 AA との出会い』 ～希望～

開催日 :2023年12月15日(金) 会場:沖縄県産業支援センターと配信型 Zoom 併用
開催地域:九州沖縄地域 参加者:266名

第2回 AA 全国矯正・保護施設フォーラム

『わたしたちにできること』 ～社会資源としてのAA～

開催日 :2024年11月22日(金) 会場:港区民センターと配信型 Zoom 併用
開催地域:関西地域 参加者:178名

第3回 AA 全国矯正・保護施設フォーラム

『わたしたちにできること』 ～社会資源としてのAA～

開催日 :2025年11月5日(水) 会場:名古屋市総合社会福祉会館
開催地域:中部北陸地域 参加者:211名

またJSOのホームページにAA全国矯正・保護施設フォーラム報告書(第1回から第3回迄)を掲載しています。

第4回 AA 全国矯正・保護施設フォーラム

開催地域:西関東甲信地域に決定。第31回評議会にて2026事業計画で報告。

また矯正活動の活性化を図るとともに地域枠を超えた相互の協力関係と連携に向けた取り組みの実現を図るため内部向けのAA全国矯正保護施設委員の集いを3回実施しました。

「未提出」

ゼネラルサービス B 類常任理事 企画担当・常任理事会議長 郷

企画担当理事の活動として、アーカイブ委員会、テクノロジー委員会、サービスガイド改訂検討委員があります。完了したものとしては、AA 日本 50 周年記念集会実行委員会、AA 日本 50 周年記念誌編纂委員会があり、今後の設置が考えられる委員会としてホームページ改訂委員会(仮称)があります。

アーカイブ委員会は毎月第4土曜日 10:00~15:00 に開催し、ワークデーとして奇数月第4土曜日 12:00~15:00 に開催しています。

作成済み文書として、目的、分類項目(案)、贈与証書、廃棄手順書があります。これからの作業としてオーラルヒストリーキットの作成、アーカイブポリシー全体の精査、アーカイブディスプレイの作成が挙げられます。また、日本の AA を振り返るフォーラムを 3 回開催致しました。

テクノロジー委員会は毎月第2火曜日 20:00~21:00 に開催し、常任理事会主催イベントのサポート、オンライン献金のサポート、ミーティングガイドアプリのユーザーインターフェースの日本語化、電子書籍導入サポートを行っています。

サービスガイド改訂検討委員会は第 1 段階(2010 年版の現状に合わない部分を改訂)が完了し、2025 年第 3 回常任理事会で承認され第 31 回評議会議題として提出しました。第 2 段階(日本版サービスマニュアル)にこれから着手予定です。

常任理事会議長の活動として、常任理事会の議題整理・進行表作成、常任理事会の書記手配、常任理事会の議事進行、常任理事会の議事録作成フォロー、理事活動費申請の承認、理事会委員会委員の任命、対外的な折衝があります。

常任理事会は毎年度、基本的に 4 回、4月、7月、10月、12月の第一土曜日、日曜日に開催しています。また、必要に応じて臨時に招集・開催します。コロナ前はすべて対面開催でしたが、コロナ後は4月のみ対面開催、それ以外はオンライン開催として経費の節減を図っています。1日目の午後に分科会、法人理事会、ゼネラルサービス常任理事より提案された会議を開催し、2日目午前・午後に常任理事会を開催しています。

ゼネラルサービス常任理事より提案された会議は、JSO有給スタッフの賃金等待遇に関する事項を決定するために、年4回、常任理事会の初日に開催している会議です。この中では、ユニオンとの団体交渉の経過報告も行っています。

また、JSO運営会議が年 4 回開催され、直接賃金に関する事項以外の、労務・実務の方針を具体的に検討しています。

理事会第1分科会では、主に評議会勧告に関する事項と JSO に関しては、経営以外の事項を扱っています。

このように多岐に渡る活動をさせていただいておりますが、理事会メンバーや理事会委員会メンバーとの信頼関係、JSO スタッフとの信頼関係のおかげで活動が成り立っている事に心から感謝申し上げます。

WSM 評議員からのメッセージ

司会 郷

AOSM 参加報告

理事会 幹 WSM 評議員 今井

第2回西日本圏 GSF において、理事会幹として、2025年10月にシンガポールで開催された第16回アジア・オセアニア・サービスミーティング(AOSM)に参加した報告を行った。AOSMは、国や言語、文化、宗教の違いを超えて、いまも苦しんでいるアルコールクに回復のメッセージを届けるという AA 共通の目的のもと、各国が経験と課題を分かち合う場である。

今回の AOSM には 17 か国が参加し、多くの国で共通して語られた課題は、「言語や文化の壁により、ローカルメンバーへ AA のメッセージが十分に届いていない」という現実であった。英語圏出身メンバーを中心に運営されている国が比較的に多く、非英語圏や多文化地域では、国際的な議論への参加や国内での定着に困難を抱えている状況が感じ取られる。

こうした国際的な視点から日本の AA を振り返ると、日本語という特殊な言語環境の中で、母国語で読める文献が豊富に整備され、全国的なサービス機構が安定して機能している日本の AA の活動は、国際的に見ても非常に恵まれた存在であることに改めて気づかされた。これは先人たちの長年にわたる献身と努力の積み重ねによるものであり、決して当たり前なものではない。

特に共有したかったのは、「日本としてこれから何ができるのか」という問いである。ローカル言語を話すメンバーへの普及が進んでいない国々に対し、日本が個人レベルだけでなく、国としてどのように経験や知見を分かち合えるのか。また、日本国内においても増加する在留外国人のアルコールクに対し、どのように AA のメッセージを届けていくのかは、次世代へ向けた重要な課題である。

AOSM の歴史は、友情と献身、そして「ゆっくりだが確実に進む」という AA の歩みそのものである。今回の参加を通して、回復・一体性・サービスという三つのレガシーを、未来の仲間へ手渡していく責任が私たちにあることを、GSF の場で改めて共有した。 以上報告いたします。

常任理事会幹 WSM(後期)評議員 大迫

「未提出」

各種ラウンドテーブル(19:00～20:40)

- ・地方にメンバーが定着しないのは何故か？/現地会場
- ・サービスでとまどった事/Zoom
- ・サービスって何？/Zoom
- ・女性の回復とサービス/Zoom

12月21日(日) 2日目

開催挨拶/開催趣旨説明 郷 注意事項 多々良

司会 元永 なっち

パネル④ 輪番制の難しさ、厳しさ

司会 月 大迫

「輪番制の難しさ、厳しさ」

中四国地域 鳥取 白うさぎグループ トモ

鳥取白うさぎグループは、ひとりの仲間が長く病院メッセージ会場を開けてくれていた。

鳥取にはアディクション連絡会という集まりがあり、当事者グループ関係者等で年2回、アディクションフォーラム、アディクションを語る集いを開催しており、定期的に情報交換、準備している。その中で白うさぎのミーティング会場が閉まっており、メッセージも途絶えているとの情報を得た。その仲間の病気を知り面会に行き、ミーティング会場を開ける約束をして、平成31年2月26日に、その仲間を見送った。

白うさぎグループの連絡員として再スタートをしたが、その後コロナを得て6年。

先人が残してくれた経験から次の仲間に役割を手渡すことを念頭に再びサービスの現場に復帰する。

昨今、アルコール依存症への医療体制も変わり、依存症支援拠点機関としての病院の取り組みが充実してきていると同時に、メッセージ参加者、病院からつながる人の減少が見られる。

幸い鳥取では、アディクション連絡会等を通じて、様々なケースや機関からAAにつながる人が増えており 地方だからできないのではなく 地方だからできることを模索していきたい。

「輪番制の難しさ、厳しさ」

九州沖縄地域 福岡地区 ウォームスグループ SHOW

AAのサービスには、グループの会場セッティングや珈琲の準備、後片付けや会場の確保など、様々な奉仕も、勿論あるわけですが、本日、ここでの「課題」としては、AAのサービス体系での役割、サービス活動の「輪番」と考えています。

このテーマである輪番、本当にAAのサービス体系、サービス活動にとって、とても大切ですが、実はいま、日本中でけっこう困った状態になってきています。

輪番制の必要性やその原理のことは、ほとんどのAAメンバーが知っています。

ところが、それが実現できなくて、仕方なく、交代せずに役割を続けてしまっています。

よくないことだと分かっているながらも、次の代議員が居なくて、「連絡員グループになる」などということさえもおきています。

ことサービス活動に於いて、伝統に則っての、輪番制の原理がいかに大切であるのかは、AAのメンバーはよく理解し、その原理を尊重していると思っています。

輪番が大事で、本当に困っていても、メンバーが居ない、だから、輪番が出来ずに、役割に居座る、というよりも、代わりが居なくて、仕方なく居座っている、みたいになってしまっている、というようなことが多いと思います。

輪番が利かないことについては、自分のことだけ、自分のグループのことだけを考えれば、それほど深刻なことには感じないのかも知れませんが、まさに今サービス活動をやっている人達からみれば、じゅうぶんに深刻なことと思えます。

グループでも、サービス活動での「役割」を経験しているメンバーは、だいぶ片寄っていて、同じ人が、何かの役割を経験したメンバーだけが、ほかの役割や、次にまた別の役割をやることにも、なっています。

個人の経験になりますが、私は、自分の回復や成長にとって、サービス活動ほど、役に立った、効果があったことはない、とさえ思っています。

AAのサービス活動に加わらないグループが、どんどん増えています。このままではAAに繋がってくるアルコールクの仲間が、サービス経験が出来ずに、本当に勿体無いと思います。

これは各個人、AAメンバーにとって実に惜しいことで、これを分かち合うこと、この有益性を知らせることは重要なことだと思っています。

AAグループが、そして、各個人(AAメンバー)が、この大切なサービスの機会を経験せず、知ることもなく、逃してしまうこととなります。

昨日、九州・沖縄地域の実情でゼネラルサービス体系に加わっている代議員グループと連絡員グループの発表がありました。

そして、実に半分以上のグループが、連絡員グループとは、ほんとにびっくりです。

(84グループ中、44グループは、連絡員グループ)

今の連絡員グループというのは、新グループがスタートしやすいように、ということで、初めてその届け出をすることで用意されています。しかしながら、月日が流れても、ずっと代議員候補者が居ないからということで、更に時が経っています。

これでは、やがてグループ自体が、そしてメンバーも、AAのサービス活動への意欲や情熱、共感も好奇心も薄れていくだろうなと思います。

コロナ以来、更に増えてきたこの状況も、果たして、これでいいのかどうかは、長い年月が過ぎてみないと分からないかも知れませんが、代議員が居て、サービス活動に加わってきたグループによって、AAのために、そしてAAメンバーのために、役立ってきたことは間違いありません。

ミーティングは毎回きちんと開かれていても、グループやメンバー同士で、サービスのことや伝統のことを考えることも、話すこともないというのは、やはりAA共同体のメンバーとして当然得られるはずの、恩恵や喜びが薄いのでは、と感じています。

まだまだサービスなんて早い、といわれるメンバーもいらっしゃるわけですが、反面、早くからサービス活動に参加するメンバーもたくさんいらっしゃいます。

無理は禁物ですが、関心がないなどというのでは、やはり勿体ないと思います。

私の知る限りですが、AAの役割を任期まで務めたAAメンバーは、サービスをやってよかったという人ばかりです。自分では考えられなかったほどの、力や、希望をもらった、という話はほんとにたくさんあります。

私は、最初から代議員がグループに存在するかたちで、AAメンバーになっていますから、どうしても、こういうことを言いたくなりますし、こういう考えになってしまいます。

日本のAA全体でも、AAメンバーも減って居るような感じですし、ことに評議員候補者は、もう頭打ちで、どうにもならないぐらいに、なり手も居なくて、実に深刻だと思います。

私は、まずは、地区委員会で「グループ代議員が参加してもらえるにはどうしたらいいか？」それを、たびたび話し合うのが、大切なのだと思います。

連絡員のグループや、代議員が居ても地区委員会に来ないグループへの、地区委員会からの働きかけや、呼びかけが、とても必要と思います。連絡員グループから、うるさい、といわれることがあるのかも知れませんが、この働きかけは、地区委員会の責任だと思います。

このように、グループと直結しているのは、地区委員会であって、そこにグループの代議員が来てもらおう、グループに代議員を選出してもらおうなどの働きかけは、とても大切だと思います。

ゼネラルサービス活動での役割の始まりは、代議員です。そのグループ代議員が居なくては、地区や地域の委員もですが、評議員の候補者も、どんどん減ってしまいます。

地区委員会は年間12回です。代議員の自覚や、意識の深まりや広がり、やはり地区委員会です。地区の状況や代議員のすることなどの説明を、根気よく、丁寧にしていくことは、必要ですし、常に、地区委員会が、グループにお願いしていくことが大事だと思います。

また、連絡員グループに、この先も、グループ代議員を置くことの働きかけや、呼びかけは、地区委員会なので、そこで何らかの協議と行動をしないと、ずるずると時が流れて行くばかりです。そして、その前向きな内容を伝える役目は、「地区委員」だと思っています。

私も、欠員補充・任期途中からの引継ぎでしたが、2年に満たない間、西日本圏B類常任理事をやらせて頂きました。当時は、50周年に間に合うようにBBの翻訳改訂や、12のステップ、12の伝統の訳語のこと、語彙についてなど、話し合うという経験をさせて頂きました。

訳語検討委員会や、JSO、常任理事会での、交互のやりとりの中で、実に感慨深いこと続きでした。内容は、たくさんありましたが、その中から一つだけ。

伝統2の「奉仕を任されたしもべ」から、「信頼されたしもべ」に決まるまで、慎重で、様々な検討協議が成されました。トラステッド・サーバンツという英語が、「奉仕を任されたしもべ」から「信頼されたしもべ」に決定される迄、ほんとに簡単ではなかったのですが、実に、素晴らしい経験でした。このようにAAメンバーによって、AAメンバーの手で、このような長い作業が行われていることを、AAに繋がってきてくれた仲間に、ぜひ知ってもらいたいと思っています。

「輪番制の難しさ、厳しさ」

関西地域 京都地区 京都スマイルグループ シェビー

関西地域で2年毎に代議員を選出しているグループは1つぐらいかないかと思います。関西は82グループあるので、輪番制は機能していないと言えます。難しさ、厳しさどころではありません。もう10年以上前から輪番制を維持するにはどうすればいいの話を話し合われてきましたが、解決策は出ていないので、できなのが現実です。こう話すと話がこれで終わってしまうのでどうしたらいいかを考えてみました。

私は今年度までゼネラルサービスに関わって代議員から数えると10年になります。以前地域委員会のセクレタリーと財務の方をやっておりました。どちらも報告書を作成します。財務の報告書で間違っただけを報告した時に指摘を受けました。地域集会の報告書は8～10ページぐらいのものでしたが1度も指摘を受けたことがありません。誤字脱字は多分かなりあったと思います。しかしその指摘をされたことがないということは、読んでいる仲間はかなり少ないのではないかと思います。私自身、関西のCO集会の報告書を全部読んだことはありません。評議会報告会を各地域で行いましたが、参加されたメンバーはどの地域も1桁です。私が今日ここに来ている事を知っているうちのメンバーは一人もいません。ゼネラルサービスに関わっているメンバーと関わっていないメンバーの関心度は大きく差がついています。評議会報告会を何度もしましたが、伝える事がとても難しいと感じています。聞く側の時も聞いていてわかりにくいものがありました。

去年のWSMテーマが「デジタル時代における、3つの遺産—今日生まれつつあるアルコールリクに対する私たちの大きな責任」でした。

そろそろSNSを活用して動画で報告をしたらどうかと思います。聞き手と解説者の2人で聞き手が、質問して解説者が答えるやり方だと評議会報告もわかりやすくなると思います。地域集会や地域委員会もニュース形式などでやればもっと報告を見てもらえるのではないかと思います。

関心をもってもらえる仲間が増えれば、輪番制も今よりかはうまくいくのではないかと思います。新しいアイデアをだして、この輪番制を変えていく事だと思っています。

パネル⑤ 金銭と霊性

司会 ヒロキ 湯澤

「～献金について、理想と現実～」

中四国地域 山口地区 宇部グループ アンディ

グループの会計係を、来年一年間担当することに決まったところでしたので、いい機会をあたえられたと思っています。会計係はゼネラルサービスについて理解を深めるきっかけとなる大切な係だと思っています。個人的にもいい経験ができる機会だと思っています。今まで経験のないひとも是非やっていただきたいと思っています。

「金銭と霊性、という言葉聞く時に、私の頭に浮かんでくる言葉とイメージは、「理想と現

実」です。理想や理念がない現実主義は、AAにはそぐわないでしょうし、一方で、現実を無視して理想論だけ語っても、具体的な解決の方向に進まないでしょう。

現在、各グループや地区・地域・セントラルオフィス、それからJSOにいたるまで、以前と比較すると厳しい財政状態だと思います。主な原因は、サービスの役割が増す一方で、メンバー数が減少し、それに伴い献金収入が減少傾向にあると思います。ところで、実情ではメンバー数が減少した割合ほどには、献金額の減少はないようです。個人一人一人の献金額はむしろ以前よりは増加しているケースが多いようです。AAメンバーシップサーベイの各項目の推移をまとめてみるとAAメンバー1人あたりの経済状況は改善傾向にあることがうかがえます。飲まないでいる期間が長いメンバーが着実に増えて主体になっているからでしょう。

AA全体や各共同体の財政状況を改善していくには、AAメンバー数の増加は必要でしょうが、すぐに対応できるものではないでしょう。既存メンバーの献金増額に頼らざるを得ないこととなりますが、すでに指摘したとおり、その中にはすでに献金額を増額している方が多くいます。そしてAAは個人の自発的な献金から成り立っており、AAメンバーには、料金や会費を支払う義務はありません。

こうした現実から、どういう対処をすればよいのでしょうか？

既存のAAメンバーのなかには、AAの各共同体の財政状態に懸念や危機感を持っているメンバーもいれば、あまりその認識がないメンバーもいます。財政状態について危機を認識しないメンバーについては、もし、その認識があれば、献金の増額について理解していただける余地があるかもしれません。長くAAにつながっているメンバーでも、地区や地域、セントラルオフィスやJSOへの献金額、その財政状況について、よく理解されていないことがあります。AA全体と各グループの自立を維持していくために、ゼネラルサービス、ローカルサービスに関わる共同体、サービス機関の存在と維持が欠かせないという認識を、もっと広く深く共有する必要があると思います。

「無償で受けたから無償で与える」とは、ステップ12の核心ですが、その一方でサービスの中には無償のものもあれば有償のものもあります。グループに限らずAAの共同体、一体性の維持のために、たとえば会場費や通信情報費、広報の費用など、有償のサービスには事欠きません。このことをもっと多くのメンバーにもよく認識・理解してもらう必要があります。メンバーが周知できる機会を得て、十分な情報に基づいたグループの良心が、自発的な献金に向かうよう、ゼネラルサービスの役割がより重くなっていると思います。グループにおいても、地区においても、地域においても、評議会においても、サービスの重要性和情報の共有が、もっと深められたらと思います。そして新しいアイデアや行動も必要でしょう。

現状を踏まえ、当面の差し迫った対処としては、経済的に余裕のあるメンバーからの自発的な献金に期待することが一番有力な手がかりかもしれません。でもここで、AA共同体の基本原則である「無名性」に立ち返って、よく考えてみる必要があるかと思えます。

AAの共同体では、特定のメンバーが有力になることなく、それに頼ることなく、偏ることなく、経験や負担をより多くのメンバーで「分かち合い」できるようにすべきでしょう。金銭の問題も同様だと思います。この理想をなんとかして保っていききたいものです。

「金銭と霊性」

九州・沖縄地域 福岡地区 小倉南ラベンダーグループ 月

今日は「金銭と霊性」というテーマで私の経験のお話をさせて頂きたいと思います。

最初に私が「アルコール依存症」と診断され、専門病院に入院したのは今から 30 年前の 32 歳のときでした。それからソバーな生活に入ったのが 49 歳のときでしたから、実に 17 年間もの間入退院を繰り返してしまいました。入院回数は 20 回を超えています。

最初に専門病院に入院した時の話です。その病院では、ある AA グループが病院内の会議室を借りてミーティングを開催していました。そこで、初めて AA に繋がりました。と言うより、「AA を知りました」と言う方が正しい表現だと思います。

初めて参加するミーティングは、とても新鮮でした。分かち合いの中では、私とそっくりな経験をした仲間たちの話を聞いて驚きの中で「とてもいい場所を知った」という思いでした。

ところがミーティングの途中で司会者が「ここで伝統 7 に基づいて献金のお願いをします」とか言って、献金袋が参加者に回され始めました。「献金？何それ？お金入れるの？いくら入れるの？」と驚きながら回っている献金袋に私の意識は全集中していました。もう仲間の話など全然耳に入らなくなっていました。

ミーティングが終って病棟に戻るとすぐに「献金っていくら入れた？」と入院仲間に尋ねましたが、誰も明確な金額を教えてくれませんでした。

翌週のミーティングの前に司会者の人に「献金っていくらくらい入れればいいのですか？相場とかあったら教えてください」と質問をしました。すると「献金はお気持ちでいいのですよ」と涼しげな表情で答えてくれました。その言葉になんとかイラッとして「だいたい 200 円くらいです。とか金額を決めてくれた方がすっきりするのに」と何故か怒りの気持ちが湧いてきていました。

あるミーティングでは、先ゆく仲間が紙のお札をこれ見よがしに献金袋に入れるのを見てムカついた事もあります。決して「これ見よがし」ではなかったのですが、その頃の私にはそうとしか受け取れませんでした。それからは、「この会場はコーヒーやお菓子が充実している」「なかなかいいミーティングだった」が私の献金額の基準になっていました。でも、どの考えも間違っていました。

そうしている内に、入退院を繰り返す私はどんどん追い込まれていきました。どこの専門病院からも入院を拒否されました。お酒は止まりません。「死」という現実がすぐ目の前にきている事がわかりました。ぼんやりとした意識の中で誰かが私のアパートに居ます。

AA のメンバーでした。仲間たちは入れ替わり立ち代わり、私の傍にいてくれました。そして専門病院に連れて行って入れて入院をさせてくれました。仲間が医師に頭を下げて頼み込んでくれたそうです。仲間たちが私を「死の淵」から引き戻してくれたのです。

それからは、毎日ミーティングに出続けて、私は、やっと AA に繋がる事ができました。生育歴の影響もあるのでしょうか「仲間」という言葉が大嫌いだった私が「仲間」を信頼できるようになっていきました。孤独感が少しずつ癒されていきました。「神様が AA でもう一度生きる事を与えてくれた。ならばこの命はどう使うか？」答えははっきりわかっていました。

サービス活動にも関わらせてもらうようになりました。最初はローカルサービスでした。セントラ

ルオフィスを健全に維持するためにはお金が必要です。オフィスの財政状態がピンチの時は、献金の呼びかけもしました。仲間たちから少しずつ献金が振り込まれてきます。

その中に献金額が100円という振込みがありました。その仲間の精一杯の想いが伝わってきて、感謝があふれ出しました。振込手数料の方が高くつくのに。でもその仲間にとっては、振込手数料の事よりも、少しでも役立てて欲しいという気持ちの方が強かったのだと思えました。

この事がきっかけで、私の中でも献金に対する考え方に変化が起こり始めました。神様のおかげで再び生きることを許され、仕事にも就くことができ、報酬ももらえるようになりました。

ミーティングで献金袋が回って来た時「この献金ちょっと多いかな?」とか考える事があります。でも「ちょっと多いかな」「ちょっと勿体ないかな」と思うくらいが丁度いい、いや足りないくらいだ。これが私の献金額の基準になりました。このお金は神様が与えて下さったものだからです。

現在の私の生活の経済状態は、余裕はないけど不足はありません。むしろ、お金では手に入れる事ができないものを溢れるほど頂いて充実した生活を送らせてもらっています。

ミーティングでは、献金袋が回ってくる度に「このお金が、今苦しんでいる仲間の手助けをする一助となりますように」と願いを込めて献金をさせて頂いています。これからも続けていきたいと思っています。

「金銭と霊性」

関西地域 京都地区 洛陽グループ 小谷

AAのパンフレットの中に、「自立 — 金銭とスピリチュアル(霊性)が交わる場所 —」という冊子があります。金銭と霊性は、対立するもののように語られがちですが、AAの中では最初から切り離すことのできない関係にありました。

ビルの学友でありスポンサーであったエビーは、ビルの飲酒の問題を何とかして助けたいという思いから、電話をかけ、地下鉄の切符を買いました。行動を起こし金を使わねばならなかったそこには、決心だけでは十分では無かった、電話ボックスと地下鉄の入り口というレベルで、金銭と霊性は交わり始めたのです。

まさにこの行動を通して、エビーはAAで活動するには多くの時間と、少しばかりの金銭的犠牲が必要だという原理を確立しました。AAの歴史と実践を振り返ると、金銭と霊性は今日に至るまで、献金箱の中で交わり続けていることが分かります。

私はAAから、一円の金銭も求められることなくメッセージを受け取り、ソプラエティという新しい生き方を与えられました。しかし今思えば、その背後には、数え切れないほど多くの仲間たちの12ステップ・メッセージ活動と献金による支えがありました。そのことを思うと、ただ感謝の気持ちしかありません。

献金は、単なるお金のやり取りではありません。それは、AAメンバーシップを表す行為のひとつであり、自分の回復だけでなく、まだ苦しんでいる仲間の回復をも支えたいという思いの表れだと私は思っています。私はAAを必要としています。だから献金をします。グループの自立のため、そして今苦しんでいる仲間のため、これからAAにつながるかもしれない仲間のために献金

をします。

献金はメンバーの特権です。私が AA に来たとき、何かを請求されたことは一度もありませんでしたが、サービスを受ける側から、サービスを担う側に立つと、グループを支えるのに必要な会場費、書籍購入費(、書籍やパンフレットの購入も、JSO を支える大切な財源です)、サービスオフィスの維持費など、現実として金銭が必要になることを実感します。

私は 2012 年、2013 年のラウンドアップで、「献金とボランティア」というワークショップを担当しました。参加者は多くありませんでしたが、このテーマを分かち合うことの大切さは、今も変わらないと感じています。

金銭と霊性は交わるものですが、同時に明確に分けておく必要もあります。12 番目のステップ活動は無償であり、対価を伴うものではありません。AA にはカウンセリングや治療サービスは存在せず、メッセージはあくまでも分かち合いとして手渡されます。

AA に来て、私自身のお金に対する考え方は大きく変わりました。かつての私は、金銭に振り回され、どれだけ得ても満たされることはありませんでした。そこには、意志の誤用と、金銭の誤用があったのだと思います。AA の伝統は「犠牲のリスト」と言われますが私にとって個人的な欲望を脇に置く練習でもあります。

ビッグブックが出版される少し前の頃、生まれたばかりの AA は資金難に直面していました。そのとき、ロックフェラー二世から資金を得ようとしたのですが彼は、「多くの金銭はこの活動を台無しにしてしまう」という理由で辞退されました。この経験が、伝統 7「すべての AA グループは、外部からの寄付を辞退し、完全に自立すべきである」という清貧原則につながっていきます。

献金には、説明責任が求められます。常任理事会・JSO は、評議会報告を通じて収支を明らかにし、AA の金庫は常に透明です。毎月貸借対照表と収支計算書、担当理事の財務所感が各グループに送られてきます。地域委員会、地区委員会も同様にその信頼の上に、献金は成り立っています。

献金は、グループ運営、サービス活動、ゼネラル、ローカルオフィスの維持、出版、国際協力などに用いられ、今日も AA の霊性のメッセージを、次の仲間へと手渡し続けています。

ケチってはいらない、これは、誰かへの呼びかけというよりも、私自身への大切な戒めです。

ラウンドテーブル報告

司会 オー 佐々木

『地方にメンバーが定着しないのは何故か?』

【参加人数】会場 19名

【役割】司会:アンディ 書記:オー

【進行】司会者の説明及び報告後にミーティング形式

参考資料として、司会者が 1997 年～2022 年まで計9回のメンバーシップサーベイ回答の調査項目表の推移を作成配布して、各項目の推移を説明しました。主な内容は以下の通りです。

- ・関東甲信越圏の居住者が増えて(2001 年 44.8%→55.2%)、地方圏の居住者は減少している。
- ・男女比は 1997 年約8:2から 2022 年約7:3で女性の割合が1割増えている。

- ・全体の平均年齢が上昇している。60代以上の高齢者の割合が増える一方、30代以下の若年者が減少している。
- ・ソーパーの割合が劇的に変化している。1997 から 2022 年まででソーパー20年以上は 0.15%→19%になっている一方、ソーパー1年未満は 41.7%→9.3%に激減している。2022 年時点でソーパー10年以上が 44.5%で全体の半数近くになっている。
- ・アルコール以外の依存がある人が 2001 年から 2022 年で1割程度増えて 40.7%になっている。
- ・所得状況では、給与所得と年金・資産収入の割合が増えて、生活保護、家族の収入の割合が減っている。

以上の資料を基に、参加者から各地域の現状や意見を分かち合いました。

主な内容、意見を以下の通りでした。

◎AAグループの現状について

- ・メンバー数は確かに減少している、特にコロナ禍以降ミーティング参加者が減っている。
- ・ここ10年くらいでメンバーが大きく減っている。
- ・1グループあたりのメンバー数が減っている。
- ・一人でいくつもの係やサービスを掛け持ちしている。
- ・病院等から新しくミーティングに参加する人が減っている。
- ・新しい人は来るがミーティング参加が続かずグループにつながらない。
- ・地方ではミーティング会場が少なく、また遠いため参加するのが大変。
- ・都会でもグループのない地区もあるように地域差がある。
- ・メンバーが増えているグループも多くある。
- ・今までAAの盛んでなかった地区にここ数年でメンバーが増えて活気が出てきた。

◎AA以外も含めた環境要因について

- ・地方だと他地域への転出も多い。
- ・特に高齢化の問題が顕著。
- ・病院の対応の変化、断酒ではなく減酒を進める病院が増えている。
- ・メンバーの行動の変化、サービスやメッセージに積極的に関わらない。
- ・他のアディクションもあるメンバーが増えている。
- ・アルコール以外の依存症者の増加
- ・社会状況や生活様式が変化しており、ミーティング参加を継続しづらくなっているのではないかと。
- ・夜のミーティングでは家庭を持っている女性メンバーは参加しにくい。

◎その他メンバーが定着しない要因

- ・AA自体にひきつける魅力や活力が感じられないからではないか
- ・メンバーにサービスの魅力が伝わっていないのではないかと。
- ・いくつも係やサービスを抱えて大変そうなメンバーを見て新しい人は尻込みする。
- ・先輩メンバーが落ち着き過ぎていて、新しい人は取りつきにくく感じる。

◎メンバーが定着するためにできること、提案等

- ・ミーティング内容や、時間帯を見直してみる(夜だけでなく昼にするなど)など、今までにとらわれず新しい試みも必要。
 - ・オンラインミーティングをきっかけに新しい人がつながる事もある。
 - ・メッセージ・広報をもっとしっかりする。
 - ・サービスに対する姿勢が大事。自分から積極的に楽しくする。
 - ・新しいメンバーに積極的に語りかける、サービスに積極的に誘う。
 - ・輪番制の大切さをしっかり伝える。
 - ・古参のメンバーは、サービスを述べ伝えてサービスや役割を手放す。今までやってきたことも大切に、これからも地道に継続する。
 - ・グループや地区、地域の棚卸しをする。
- など様々な意見が分かち合われました。
- このテーマについては、参加者の皆さんが、それぞれに多様な意見を熱心に伝えられていました。

『サービスでとまどった事』

【参加人数】13名

【役割】司会：省吾(関西地域兵庫地区フリーデングループ)

書記：ichiro(関西地域兵庫地区ピースフルグループ)

【進行】ミーティング形式

内容抜粋

- ・病院メッセージで退院後スリップしてから疎遠の病院へ行ったときにとまどう。
- ・矯正施設へのメッセージで自分の体験が受刑者の方よりも酷いことにとまどう。
- ・スポンサーが楽しそうにサービス活動しているのを見て、なぜだろうと思った。
- ・最近サービスを嫌がるメンバーが増加しているように思う。BMTGに参加しない。
- ・代議員を出さない(出せない)グループが多くなった。
- ・矯正施設の出所者の保証人を引き受けるかどうか難しかった。身内や仲間に相談して断念したことがあった。
- ・AAに繋がってとまどう(分からない)ことだらけだった。
- ・Zoomの操作を詳しく教えてくれる人がいなくて困った。
- ・広報チラシなどを、なぜフライヤーと呼ぶのか分からない。
- ・兵庫地区のメンバーが多い活気のあるグループに所属していた。
BMTGや地区の広報活動などは広くこまめに活動できてとても楽しかった。
- ・しかし、2002-2005年ごろにゼネラルサービスとローカルサービスに分離されほとんどのサービスがローカルサービス側に吸収されて運営委員の権限が強化されサービスが地元で固定されてしまいだんだんサービスから遠のくようになった。地域委員会(集会)は何をやっているのだろうか?という声が聞こえるようになってきた。(関西独特のルール?)

- ・地域集会と委員会のコミューンが悪くて、議決までに長時間を要したことがある。
- ・30周年(2005年)メンバー皆さんが楽しくいろいろと役割をやっていた。
- ・グループからの意見がなかなか出ないことが多くなった。
- ・関東ではメンバーも多くて楽しくできた。特に、地域分割の協議に参加出来て良かった。
- ・今は九州だが、なかなか役割が決まらないことが多くなった。
- ・パートナーの協力でサービスを続ける(とどまる)ことができて良かったと思う。
- ・35周年イベントで横浜はメンバーが多いのでだれかが実行委員をやってくれるだろうと思っていたら、他地域のメンバーが大多数を占めて先行く仲間の叱責を受けた。
- ・サービスにかかわり続けて良かったと思う。
- ・今回のフライヤーで間違いが多々ありましたが、AAは受け入れてくれるので助かった
- ・グループの広報活動の中で、なぜ九州にはシルバーMTGがないのか問われた。
他のアディクションをAAに紹介されるパターンが多くある。田舎特有の問題か？
- ・メッセージの時に交通費などの支払い(関係機関の決まり)などに苦慮することがある。
- ・テック班の作業(パソコン操作など)難しいことが多々ある。
- ・テック支援はボランティア活動のため、オフィスでの困りごとなどを運営委員会で発言できない(発言権がない)。
- ・いろいろとお話が聞けて良かったです。ありがとうございました。

『サービスって何?』

【参加人数】会場 11名 Zoom 12名

【役割】司会 としき 書記 Wisteria テクノロジー ヒロキ

【進行】スピーカー2名 発言の後分かち合い

【スピーカー】

◎2名からのスピーカーの分かち合いのあと、ミーティング形式の分かち合いを行った。

基本的に自分がやったサービスの中で、よく一体性と言われるが、自分の考えや色々なことに変わってくることがあるので、必ず本を確認するようにして、読み合わせするのが大事なと思う。

基本がBB、12&12、三つのレガシー(回復・一体性・サービス)、12の概念、サービスマニュアル、AAサービスガイド改訂版、AA成年に達する(AAの創生期の歴史)、各種黄色い表紙のものを今年は50周年記念集会の実行委員会があったので、実行委員会書記の頃はカンファレンス・コンベンションラウンド・アップそのガイドラインを初期の頃によく読み合わせた

自分も最初からサービスをうまく出来たかというところではなく、恐れと不安がすごく強かったのが基本的に自分からサービスを積極的に引き受けたのではなく、仲間の声からで、やはりホームグループに入ってから繰り返しサービスをやってみながら、「生き方の問題」「プログラムを使う」ということがわからなかったが、ホームグループに入って会場係をやって、グループの一員になれたという気持ちになった。

今は日本版のサービスガイド改訂版の「改訂版の発行に寄せて」にも書いてあって、「サービス

が参加するものではなくて、受け取るものになってしまっている一部の風潮について、数多く報告され、とても憂慮される事態になっていることが共通認識になっています。」

色々な報告関係を読んでいるといつの時代も変わらないのだなと、結論からいうと将来も変わらないよなって思います。だけど後半に書いてあるとおり、「AA の三角形の一片として表されているようにサービス行うことは、紛れもなく AA プログラムの一部であり、AA メンバーとしての特別な権利でもあり、そして素晴らしい恩恵をもたらすものであります。」三つのレガシーと言われる一つのプログラムの一辺が「サービス」であるのですけれど、本当にその書かれているとおりであります。

サービスをやってみてどんなことが良かったのかというと、色々な催し物がある中でそれを作り上げる実行委員会というものがあるのだけれども、そこに参加をすることが実にその催し物を感じることができ、それを楽しいと思うことには時間がかかるが、あれほど誰ともコミュニケーションを取れなかった自分が、実行委員会という時間を通して、みんなと知り合いになれる。

仲間意識が生まれるということは、その中で作り上げていく苦勞を同じ時間を共にしないといかないということ自分で自分にとってお酒を飲まない生き方が訪れた。日常の些細なことに喜びを感じられるようになった。これが AA プログラムのプレゼント以外の何物でもないと思います。

先述のとおり、素晴らしい恩恵をもたらしてくれています。AA のメンバーの特別の特権ですと書いてあるとおり、メイン・プログラムと一緒にサービスをやっていた仲間が、「一人占めしたらダメよ。受け渡していくことがすごく大事」あの意味は同じサービスを自分のものにしたらダメで、自分で手放していく、自分で留めたらダメで、あれが良くわかる例で、経験した人は歯痒いかもしいけれど、それを受け継いだ人が出来るとか出来ないとかは関係なく、見守る。その時々で声をかけて頂たり、引っ張り上げてくれた人がいなければ、今の自分はないなって思います。

サービスを休み、休みやっていると一年経たないうちに少し変になったのですね。自分はホームグループだけに通っていればいいやって過ごしていたのですが、その時に何を感じたかという、もしかしたら自分はこのままフェードアウトしてしまうのではないかと、AA の中でこのまま飲まないかもしれないけれど、自分はいなくなる気がすると思っていた時期に、仲間が実行委員会に誘ってくれたのです。

今までやったことのないサービスでした。それは自分にとってとても大きな財産になった。この3つの、「ステップ・ホームグループ・サービス」が自分の中で本当に大事なものと気づいた。

この大事なものを仲間と一緒にやっていくということ、初めて仲間という意識が自分の中に生まれた。過去の人生の中では自分にはなかったような気がする。それを AA の中で教わっています。

(ひがし城西地区/豊島 Gr のり)

僕はサービスに最初に繋がったのは、ホームグループでサービスに関わった経験で、最初はコーヒーのコップ洗いというのがとても大事なサービスなのだよって先行く仲間と言われて、コップ洗いをさせていただきました。「これが本当にサービスなのかな。」って思いながら首を傾げながら、ホームグループの中でさせていただきました。

他の仲間が地区委員会とかチェアマンとかをやっているのを見て、自分もそれをやらねばと思うまでにはそう時間は掛からなかったです。「まだあなたはもう1年ぐらいゆっくりやったら」って仲間に言われたのが、自分では情けなく感じた。

ただ恵まれていたのは、自分のホームグループもスポンサーである方も、わりとサービスにはとても関心がある方が多かったので、その中でスクスクと育まれていった。

グループの役割以外のことで、僕がソブラエティ3ヶ月くらいの時に、AA35周年記念集會というのが愛知であって、実行委員会が始まった頃だったのですが、ビジネスミーティングの中で「実行委員会というのが始まるから、楽しいから来てみな。」って仲間から言われた。「じゃ行ってみよう。」と実行委員会に行くわけですけど、当時3ヶ月くらいのソブラエティですから、他のグループの仲間も沢山集まっています、「あなたはまだ何もやらなくていいからね。」って言われてね。「ただそこの中にいるだけで飲まないでいられるから、毎回来な」って言われて「ここにいていいのだよ。」ってそういう言い方をされて、非常に居心地はよかったですね。

オブザーバーの方も結構沢山いて、この中でいよいよここで実行委員になってくれる人って話があって、その時にソブラエティの長い人が「実行委員になった方がいいよ。」って言われて、声をかけるのですよ。そこで初めて実行委員の経験をさせてもらって、少しずつその中でゆっくりとちょうど3年くらいの実行委員会の期間があったので、その最中の1年くらい経った時に少し役割を任せてもらえるようになって、自分にできることがあるのだと思ってやるわけです。

それをやってみるのがすごく楽しくて、朝、仕事に行く時間まで夢中になってやっていました。自分が夢中になるものが初めてこんなにあったという、その夢中になった経験と実行委員会の中で腹を立てた経験があったし、飲みたくなったらスポンサーに電話するっていうか。

そんな経験の中で、集會が終わった後から思ったことは、自分が携わることによってソブラエティが与えられた、そう思った時に「あっ良かったな。」って思いました。

のちに僕は代議員の後に地区委員も経験させてもらったのですが、地区委員になるとサービスマニュアルとか読み出すのですよ。サービスマニュアルの中に地区委員の役割とか色々書いてあったり、「みんなのための地区委員」っていうリーフレットというのがあったりするのですが、正しいことを伝えるのは大事なことのだけれども、全体を見ていくこと。中庸を見て考えていく、そういうリーダーシップをとっていくのが大事なのであって、全てサービスマニュアルとかも本当の意味では日本のAAの目標だとは思いますが、今はこうだからこうとかね、そういう引いた目線、冷めた目線で物事を見ることと、皆様と分かちあっていくというのが成長なのかなと思います。

3年くらい前から地域のサービス、財務の方に関わるようになってのなったのですが、少しずつサービスの気持ちが戻ってきまして、落ち着いた感じで地域のために、アルコールのために自分ができることを何かしたいというところがあります。

僕はサービスとは行動だろうなって思います。仲間と一緒にいく、行動するというその時点でサービスに関わらせていただいているのだなということで、今日一日ありがたく参加させていただいているなって本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

(中部北陸・愛知地区/江南 Gr チック)

『女性の回復とサービス』

【参加人数】会場 10名 Zoom 21名

【役割】司会 ナンバ 書記 ふみえ すず テクノロジー なっち

【進行】スピーカー2名発言の後分かち合い

【スピーカー】

1. 仲間の正直な話、飲まずにキラキラしている姿は引き付ける魅力。スポンサーシップの中で聞いて貰っていた。サービスについてくる恐れに対して、概念の読み直しをしたスポンサーとの関わりも助けになった。家族の支えも大きい。
2. AA に女性がいなくて怖かった。女性メンバーの中でも怖かった。スポンサーシップの中でも当初は報告のみ。何か言われるのが嫌だった。その後徐々に変わっていった。AA のサービスをしてゆくうちに自然に女性とも接することが出来るようになった。広報やメッセージにグループで行くようになり、その中で女性がいると雰囲気が変わると言われた。仲間という時間を増やしたかった。サービスは女性同士守りながらやってゆくと良い。

【分かち合い】

・サービスを始めるのは遅かった。ホームグループの中でビジネスに出るように言われて参加した。メンバーに自分も同じことをしてもらったとのことだった。自分の心がほぐれた。コロナの時期は仲間とオンラインで会えるのが嬉しかった。

お酒を止めるのに AA の時間をさかないといけないと覚悟をした。役割が増え家庭とのバランスが崩れた。バランスをとるのは難しい。男性の中で女性である事に甘えたくないの一生懸命やる。女性はアル中である事は世間的に言いづらい。

女性特有のライフステージ(家事、育児、介護)の中でミーティングに出るだけでサービスに加われない事もあった。母が亡くなり「サービスしませんか？」と声がかかったり評議員を2年したりグループのサービスを行った。時は与えられる。女性のライフステージに合わせできる事をやってゆく。肩肘を張らずサービスをしてゆけば良い。

・子育てに必死でサービスどころではない時期もあった。スポンサーにも止められた。その後同じサービスが回ってきた。時期が来れば回ってくると思った。仕事、家庭、AA は三角形。

・女性メンバーは少ない。1グループに1人いるかいないか。その中でトラブルに見舞われることもある。連絡先の交換も注意している。人を介して連絡を取ることも。その中でも仲間と何かを一緒にすることは楽しい。恐れずに自分の出来る事をやってゆきたい。

【終わりに】 平安の祈り唱和

【総括】

終始和やかな雰囲気の中ラウンドテーブルが行えた。Zoom 参加者、現地参加者メンバーの一体性を感じる事が出来た。女性ならではの回復、サービスのプロセスの中で、女性だから出来ないではなく女性だから出来る事もたくさんある事を認識した。また必要な時は与えられるものである事がわかった。女性のアル中という言葉で自身を卑下することなくそれぞれの生活環境の中でサービスに携わる事個々の成長につながってゆくのだと感じた。

バスケット Q&A

司会 郷

会場からの質問事項

- ・献金は何につかうものでしょうか？
どんな事につかえて、どんなことにつかうべきではないのでしょうか？
献金はどのように使われていますか？
- ・家庭と仕事のバランスは？
- ・現在の役割をされていて家族から何か言われたことはありますか？
- ・サービスの役割をやってよかったことは？/サービスをやってよかったことは？
- ・グループ/地区/地域と連携して専門家協力委員会は何か出来ることはありますか？
もしくは専門家協力委員会の役割を詳しく知りたいです。

Zoom からの質問事項

- ・伝統の番人という言葉をよく聞きます。どういう意味ですか？
- ・地方在住だと自分がミーティングを開いた際に身バレをして家族に迷惑がかかるかもしれないと危惧があります。地方のメンバーはどのように工夫をしていますか？

上記内容にてバスケット Q&A を行いました。

その他の質問事項(会場)

- ・ミーティングで「テープ、メモ等をご遠慮ください」とありますが最近ミーティング中にスマホをさわっているメンバーをよく見かけて安心して話せない、新しいメンバーが不安にならないかと心配です。どうでしょうか？
- ・サービスの役割を二度とやりたくないと思ったことはありますか？
- ・評議員は楽しいですか？
- ・今行っているサービス、過去に行ったサービスの役割は、自ら立候補したか、もしくは他のメンバーに声をかけてもらって立候補や志願したか、どちらでしょうか。
- ・新しい仲間が繋がった時気をつけるポイントを教えてください。
- ・日本のミーティングはオープンのテーマミーティング多いのですが海外ではもっと書籍ミーティングが多いとききました。何が原因ですか？
- ・BOXの売上は毎年減っています。必要な仲間、今苦しんでいる仲間、関係者に届いていないだけではないだろうか？
- ・献金で「コインケースで1円玉を50枚入るものから全て献金したら会計が集計で苦勞するから小銭を少なくするようにと言われた。このような経験がある方はいますか？
- ・献金の協力、呼び掛けで「出来る人は出来る範囲で出来ない人は出来るようになってからで構いません」この言い回しは上からの物言いに受け取られかねないといわれました。他地域、他グループではいかがでしょうか。

その他の質問事項(Zoom)

- ・AA の言葉の意味がわかりません
- ・代議員が集まって会議を持つのに何故名称が「地区委員会」なのですか？
地区委員は正副一人ずつしかおらず、代議員がたくさんいるのに…

「今、何を感じていますか」

司会 丹生

参加者からランダムに指名し「今、何を感じていますか」をお聞きしました。

「クロージング」

2026年3月任期了者のご挨拶

大迫 WSM 評議員	湯澤(全国選出 B 類常任理事)
佐々木(西日本圏選出 B 類常任理事)	郷(ゼネラルサービス B 類常任理事)

実行委員長のご挨拶

西日本圏 B 類常任理事 佐々木(BOX-916、矯正・保護施設)

本日は第2回西日本圏 GSF に会場と Zoom で参加していただいたメンバーの皆様、本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

2023 年の第4回常任理事会で第2回西日本圏 GSF を開催することが決まりました。当時の常任理事会議長兼企画担当と開催にむけてホスト地域を中四国にお願いすることで話し合いました。2024 年の中四国地域集會に担当理事として3回出席しホスト地域を中四国地域にとお願いさせて頂き3回目の地域集會で快諾・承認をいただきました。

ただし実行委員会を立ち上げる前に事前説明会を行って欲しいと要望があり4回の説明会を実施したのち 2025 年4月から常任理事会設置規定に沿ってメンバーを人選し正式に実行委員会を立ち上げました。ここまで9回の実行委員会を行い開催地/会場選定、プログラムの企画立案、広報、テック関連等を実行委員会で話し合い、短期間で実行に移し本日ここに第2回西日本圏 GSF 開催する運びとなりました。実行委員会メンバーの皆様、現地実行委員会メンバーの皆様、本当にご尽力いただきありがとうございました。

コロナ以降、日本の AA は元気がない、特に地方圏は深刻な状況と委員会の中でも話がありました。メンバーが繋がらない、メンバーが去っていった、サービスの成り手がいないため輪番制が機能しない、述べ伝えがうまくいかない、などなど問題の洗い出しを行いました。

結果、だからこそ、このフォーラムで分かち合い共有し問題解決の糸口を見つけられたらという願いと想いと希望を込め第2回西日本圏 GSF が開催に至りました。

わたくしごとですが2026年3月末で理事の任期満了となります。

その中で経験したことは AA 全国矯正保護施設フォーラムを開催するにあたり開催地域が第1回は九州・沖縄地域、第2回は関西地域、第3回は中部北陸地域、そして今回の第2回西日本圏

GSF でいずれも西日本圏/東日本圏の地方圏でした。仲間の熱量は熱く AA のメッセージを運びたいという想いとポテンシャルがある事ときっかけ、糸口を見つけ打開することができたら飛躍的にのびる無限の可能性を強く感じることができました。

このフォーラムの目的でもある「意見や経験の分かち合いを促進することにより、メンバーやグループ、そして地域を越えた地方圏の中に、一体性を醸成することができるよう、メンバーたちが適正な AA について話し合える機会を提供するためのフォーラム」と「AA における共通した課題に対して意見や分かち合い、地域を超えた地方圏の一体性と活性化を図る。」ということができたように思えます。今回のフォーラムを通して西日本圏の交流が盛んになる事を切に望んでいます。わたくしの実行委員長のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

閉会のご挨拶

B 類常任理事 郷（議長、企画、議事(評議会)補佐、JSO 補佐）
皆様、西日本圏ゼネラルサービスフォーラムにご参加いただきまことにありがとうございました。
改めまして、B 類常任理事企画担当の郷です。

私は 2026 年 3 月で常任理事の任期を満了致しますので、今回のフォーラムは企画担当理事として最後の大きなフォーラムとなりました。
実行委員会のメンバーをはじめ、本フォーラムの開催に関わってくださった仲間、そして参加してくださった仲間から心から感謝申し上げます。

ゼネラルサービスフォーラムは今回で 4 回目となりますが、回を重ねるごとに内容が充実してきたと感じております。

これは皆様のご尽力のたまものだと考えております。

開会の挨拶でも申し上げましたが、ゼネラルサービスフォーラムとは、サービスのラウンドアップのようなものであると考えております。

サービスに関わっていく事は、大変な事でもあると思います。しかしそれを超える喜びと成長をもたらしてくれる事も事実です。

本フォーラムを通して、皆様がそれぞれの充実したものを感じていただき、新たにサービス活動の道に入ってくださいる仲間がいらっしゃる事を心から願っております。

AA の三つのレガシーである回復・一体性・サービスをバランスよく経験していくことで、豊かな人生が送れると信じております。

みなさまの人生に幸あることを心から願っております。

これをもって私の挨拶の言葉と致します。ありがとうございました。

別紙

アンケート

「改善してほしい点をお聞かせください」

- ・同じ人ばかりが何度も登壇するより、一人でも多くのメンバーが話せる機会を提供してほしい。
- ・ラウンドテーブルの入り方の説明がわかりづらかったです。いろいろ試行錯誤の上、画面上の既知の仲間に教えていただきました。
- ・Zoom の音声途切れたので設定をよくしてほしい。
- ・1 日目は午前の部とラウンドテーブルのみオンライン参加したのですが、ラウンドテーブルへはチラシに掲載されていた ID から入ろうとしてしまい、30 分ほど待機しました。結局、さすがにおかしいと思い仲間に尋ねてバーチャルロビーの存在を聞きました。バーチャルロビーの説明を聞いていなかった私にも落ち度はあったと思うし、テックをやってくれた仲間のご苦労もわかるので伝えるのは心苦しいのですが、同じようにチラシの ID から入ろうとしてしまった仲間が何人かいたようなので、次回の為に記載させていただきます。すみません。次回は、混乱のしないような記載の仕方をしてもらえるといいと思いました
- ・途中の休憩を適宜入れてほしい。

「その他自由意見」

- ・実行委員会と理事会の奉仕に感謝します。
- ・次回の開催地に決まり、初めてゼネラルサービスフォーラムに参加させていただきました。ズーム参加ですと、長丁場で少し集中力が切れてしまいました。休憩の回数がもう少し多いと良かったです。内容は盛りだくさんでとても勉強になりました。
- ・全体としてとてもよいフォーラムでした。
- ・前々回、前回に続き、今回も参加してみて、やはりとても良かったので、まだ GSF に参加したことのない仲間にも伝えたいと思いました。次回も、事前に仲間に声を掛けて参加したいと思いました。今回は、全体のことを知れば知るほど自分のグループのことを改めて愛おしく思えるようになるなと感じました。仲間にもその経験を伝えて行きたいと思います！開催して頂きありがとうございました。
- ・地域単位だけでなくグループ単位でのスピーカーも入れたらどうかと思いました。

会計報告

予算項目	金額	支出項目	支出金額	備考欄
フォーラム 開催費用	200,000	会場費:大研修室	59,100	リハーサル(夜間) 含む3日分
		暖房費:大研修室	12,420	リハーサル(夜間) 含む3日分
		会場費:ミーティング室 1、2、3	1,870	12月20日 18:00~21:00
		暖房費:ミーティング室 1、2、3	420	12月20日 18:00~21:00
		フライヤー印刷代	5,930	1700枚
		テクノロジー関連費用	105,864	パンダスタジオレンタル代 ビデオカメラ 上記用三脚 変換アダプター マルチ SIM ルーター フォンケーブル HDMI
			2,210	パンダレンタル返却費
			4,910	メンバー機材返却費
			904	養生テープ/マスクン グテープ
		JSO 書籍/備品返却費	3070	実行委員会→JSO
計	200,000	計	196,698	
収支差額			3,302	

会場献金額: 70,837 円